

< 利用条件 >

本書は、本書の内容及び表現が変更されないこと、および出典を明示いただくことを前提に、無償でその全部または一部を複製、転記、引用して利用できます。なお、全体を複製された場合は、本書にある著作権表示および利用条件を明示してください。

本書の著作権者は、本書の記載内容に関して、その正確性、商品性、利用目的への適合性等に関して保証するものではなく、特許権、著作権、その他の権利を侵害していないことを保証するものでもありません。

本書の利用により生じた損害について、本書の著作権者は、法律上のいかなる責任も負いません。

Copyright (c) XMLコンソーシアム 2008 All rights reserved.

概要

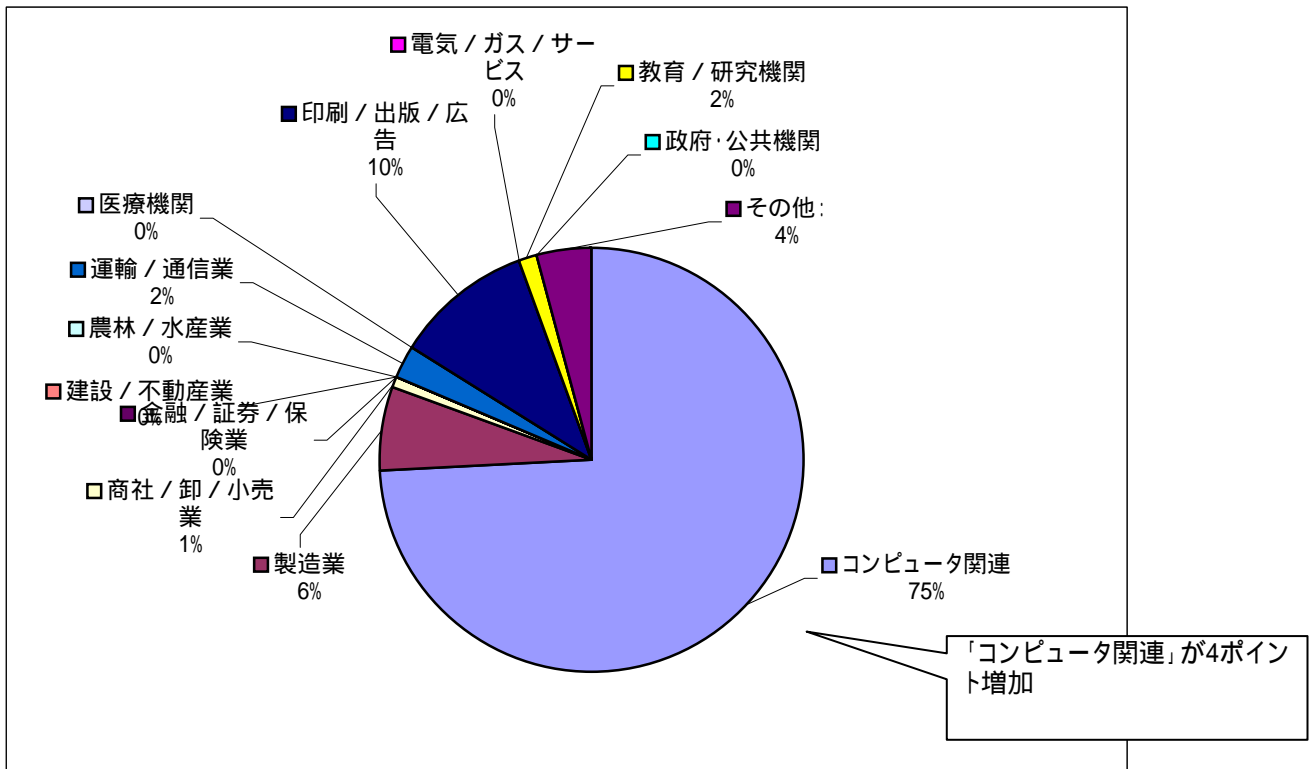
期間： 2007年11月20日 - 12月 5日

回答数： 122会員

回答率： 72% (回答 122会員 / 会員数 169会員)

XMLコンソーシアム「活動アンケート」

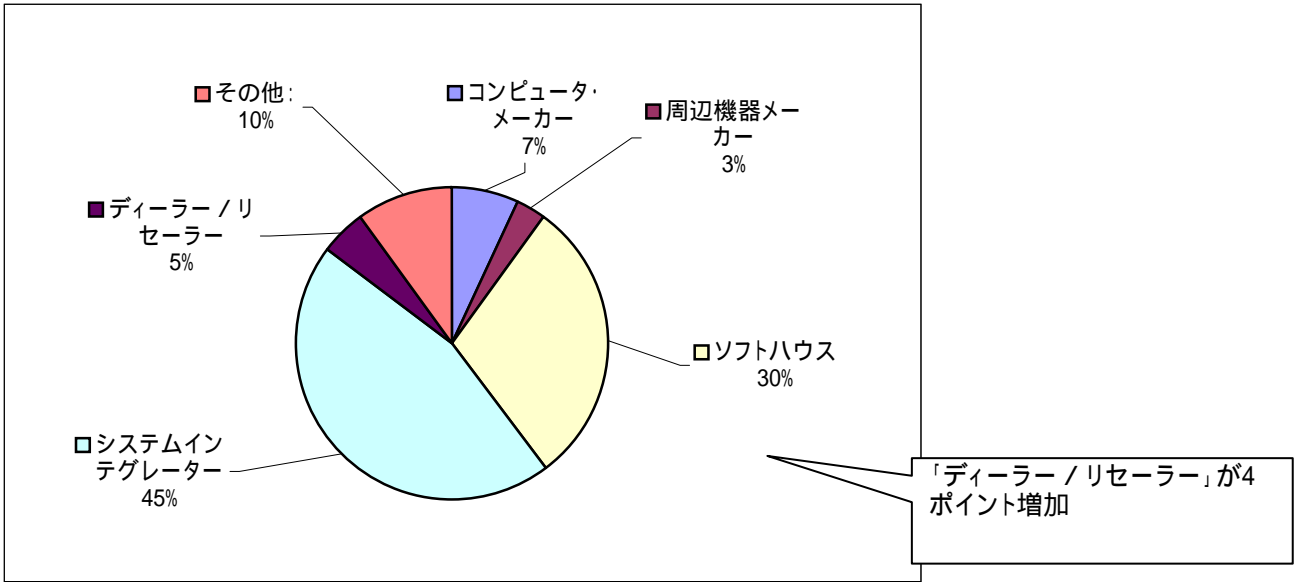
1) 主要業種



その他:

情報セキュリティコンサルティング
マスコミ
人材サービス業
教育映像制作他
ネットワーク機器
ウェブインテグレーター

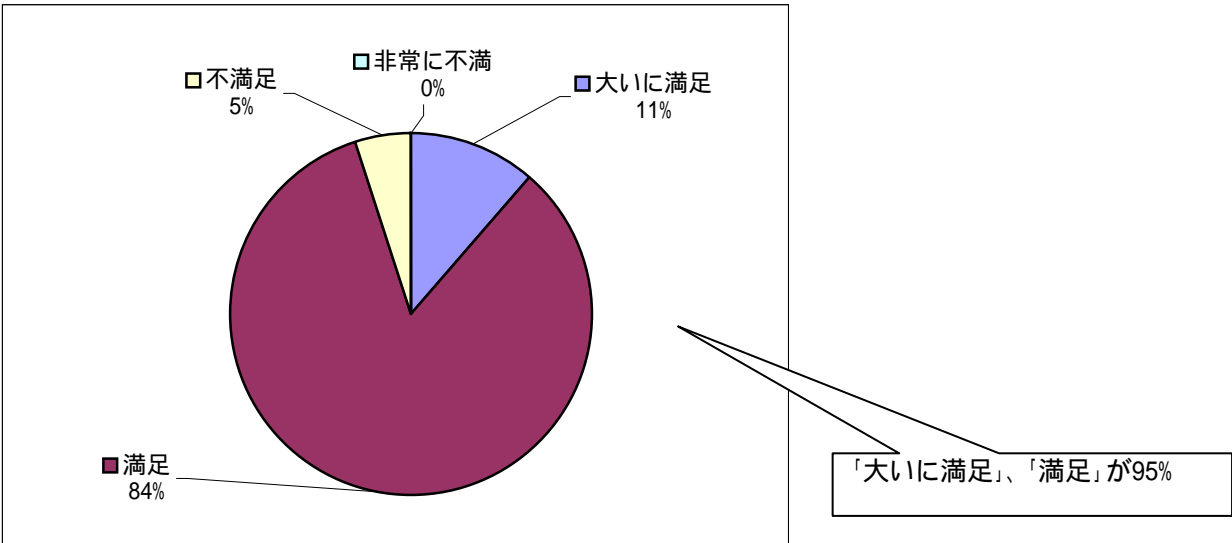
1 - 1) コンピュータ関連の内訳



その他:

コンピュータ・ソフトウェアおよび関連製品の営業・マーケティング事業
コンサルタント
ITコンサルティング
システム開発・WEBサイト制作
ISV
ソフトウェアベンダー
サービス:自動車、航空機設計、技術マニュアル作成等

2) XMLコンソーシアムのこれまでの活動に対する評価および選択された理由

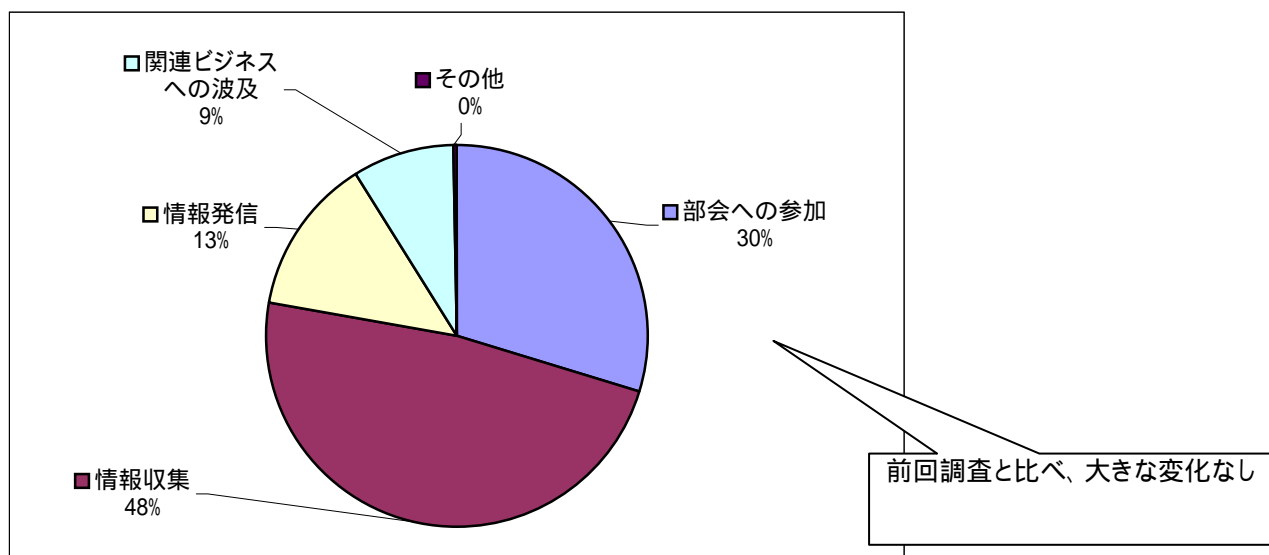


「設問2:XMLコンソーシアムのこれまでの活動に対する評価および選択された理由」サマリー

サマリー方法: 回答の自由記述文(91社)の趣旨を文脈から判断して分類。 記述文に複数の趣旨が含まれる場合は個別にカウント。

	コメント数
大いに満足の理由:	12社/14社
最新情報を収集・取得できる	5 業界の最新動向・最新技術・トレンド・利活用イメージ 多くの社員の部会・セミナーを通じて情報収集に役立っている
会員間の交流、情報交換の場の提供	3 新技術の勉強が即仕事に役立っている 3 社外人脈の形成、知的刺激を受けられる 競合他社の垣根を越えてできる環境が素晴らしい 先進的かつビジネスに役立つ知識情報交換
関心のある活動が行われており、大変参考になる 情報発信	2 XMLDB、内部統制、 2 活発な部会活動、Day/Week等セミナー セミナーがポイントを得ていて、わかり易く勉強になる
直接的なメリットを享受	2 自社主催のシンポジウムへの後援など マッシュアップコンテストに関する情報交換ができた
普及に貢献	1 XMLの普及に広く貢献、利用推進をリードしている
満足の理由	73社/103社
情報収集・発信に役立っている	27 部会やセミナー、先端技術に関するタイムリーな情報、活発な情報発信 業界動向、場の活用ができる 情報提供が充実、
企業間の交流、人脈形成	13 企業間交流、他社の人との交流、意見交換、議論からの刺激、人脈形成、 業界内での横の連携
活動が活発	10 精力的に活動している、催事の充実、時代にマッチしたテーマ、有意義な企画が多い
活動成果・ドキュメント・情報公開	10 しっかりしている、参考になる、先進的な技術資料が利用できる
普及・標準化・利活用推進に努めている	7 ベンダ・業界の枠を超えた取組み、SOA
勉強会、部会への参加	6 立場の異なるメンバーと一堂に会した議論、TravelXML部会、Webサービス部会
意識・スキルの向上	5 部会活動を通じて社員の意識が向上、若手の育成に有効
勉強会、セミナーが多い	3 現状、動向に沿ったセミナー、資料の充実、新しい知識の取得、タイムリーな話題
継続性	3 議論の場の提供など単独ではできない活動を継続的に実施できている
新技術の展開・取得に有用	2 社内導入で役立った 技術的な進歩があった
ユーザーの視点にたった活動	2 ユーザー企業でも参加できる活動が多い。
その他	2 XML技術に関する日本の最高レベルのグループである。 他にはない活動と結果を出している
不満足の理由	6社/6社
XMLの有効性がまだ浸透していない	
積極的に参加できていない	
情報を活用する機会がない	直接開発業務で必要とする場面が少ない
先進的な話がない	チュートリアルなどは充実しているが....
外部との連携やメンバーの追加など融通が利かない	部会での活動は有意義だが...
公開文書が少なくなっている	部会等に参加しないと情報収集が困難なため入会のメリットが薄いと感じる

3) XMLコンソーシアムに参加する期待やメリット



部会への参加 その他:

OpenXMLなどに関する正しい理解・共有の促進など

情報収集 その他:

XMLマスタの試験対策会等

情報発信 その他:

外部主催イベントなどを通じてのコンソーシアムの知名度や活動内容の認知向上

その他

新たな市場/ビジネスの創出

「設問4：XMLコンソーシアムに期待される今後のテーマ」サマリー

サマリー方法：回答の自由記述文(54社)中に出てくるキーワードの数を趣旨を理解してカウント

ただし業界関連に関しては、作成者独自の判断の基に、出てきたキーワードから業界を類推したものあり。(例：携帯 通信)

技術関連

SOA	6	
標準化	5	国際標準、業界標準(2)、規格安定化
Webサービス	4	
SaaS	4	
オープンソース(OSS)	3	
Semantic Web	3	
Webプラットフォーム	3	ネット基盤
Web2.0	2	
(XML)DB	2	
(XML)ネットワーク	2	ネットワークでのXMLデータ交換
ナレッジマネジメント	2	知的情報
OpenXML	1	
電子署名	1	
SOAP	1	
ATOMpub	1	
SNS	1	
デザイン	1	ユーザインターフェース
BPEL	1	
文書管理	1	

業界関連

		キーワード
印刷・出版・広告	4	クロスメディア、電子広告、電子ペーパー、印刷系XML製品、JDF、XSL-FO
通信・放送	4	XMLデータ交換技術、BML(2)、地上波デジタル、携帯、ネットワーク運用管理
製造業	2	ワークフロー、生産管理、設計・解析情報の連携
医療	1	電子カルテ、HL7、MML
公共・自治体	1	交通情報、天気情報、イベント、駐車場情報
娯楽	1	映画情報
人材派遣	1	標準化

応用分野

内部統制	3	XBRL, JSOX
組み込み系	2	携帯電話、小型デバイス
ビジネスモデル	1	
Webアクセシビリティ	1	
権利の管理・流通	1	

その他

事例・成功例	6	XML利用領域の研究
製品情報	1	
XML技術者人材育成	1	データモデリング
業界動向	1	

「設問5:XMLコンソーシアムに対するご意見、ご要望」サマリー

サマリー方法: 回答の自由記述文(28社)の趣旨を文脈から判断して分類。記述文に複数の趣旨が含まれる場合は個別に分類。

【肯定的意見】

活動に満足している

- ・活発な活動展開 (2件)
- ・充実した成果物の公開
- ・きちんとした運営を継続している
- ・目的や役割を十分に果たした。
- ・今後とも、応用面まで含めた最新情報の発信に期待する
- ・ず - っと継続してください。
- ・今後もよろしく。
- ・これからもXMLというキーワードを切り口に、様々な技術を独自の視点で分析して、世の中に問いかけていく活動を大事にして欲しい。
- ・選択しているテーマや部会活動など、非常に有意義
- ・今後も継続して参画したい団体
- ・最大の魅力は、同じ課題を持つ他企業、他業界の人との意見交換や解決策に対する議論ができること。これにより自社の議論では解決しないテーマに新たな解決の方向性が見えてくる。
- ・各部会で議論をリードしてくれている方々に感謝するばかり。今後もこのような活動を維持して欲しい。
- ・今後とも、有効でタイムリーなイベントを。
- ・ダウンロードしているセミナー資料は重要な情報源。今後とも活用していきたい。

【要望】 活動内容・方法について

- ・新しい技術を地道にフォローし、業務システムに繋がる技術(のヒント)を紹介すると良い
- ・エンドユーザーが実際に使えるノウハウをアピールできると良い
- ・短期的な研究会を設けて欲しい。(例: Saas、BI、仮想化など注目度の高いテーマ)
- ・特に組み込み機器の観点から、XMLデータの取り扱いに最適なDBの研究
- ・他分野との連携をもっと柔軟に行えるようにして欲しい
- ・特に関連がなさそうな部会間の交流の機会があると良い
(月例部会を同じ会場で開催するとか、オンラインで交流するなど)
- ・部会活動に関して、運営関連をもう少し明確にする必要があるのでは?
- ・もっとXML技術を推進して欲しい。

情報発信について

- ・ホームページのセミナーや部会活動の資料について、分野別インデックスを作成して欲しい。
非公開資料もインデックスは公開してはどうか。
- ・Webサイトの改善(RSSによる情報発信など、XML技術の活用。部会の情報共有のためのツール提供)
- ・セミナー開催を増やして欲しい。
- ・公開資料の最新化および整理
- ・セミナー等の開催告知をもう少し早く。

【提案】

- ・会としての達成目標、成果物の作成目標を設定すること
- ・XML/EDIの世界から見ると国内ビジネスに限定した業界標準のXML化の手伝いしかしていないように見える。
国際XML/EDI標準化活動と連携する活動はできないか?

TravelXML実証実験だけでなく、実務でも使えるXML/EDIの実証実験を協力して出来ないものか？

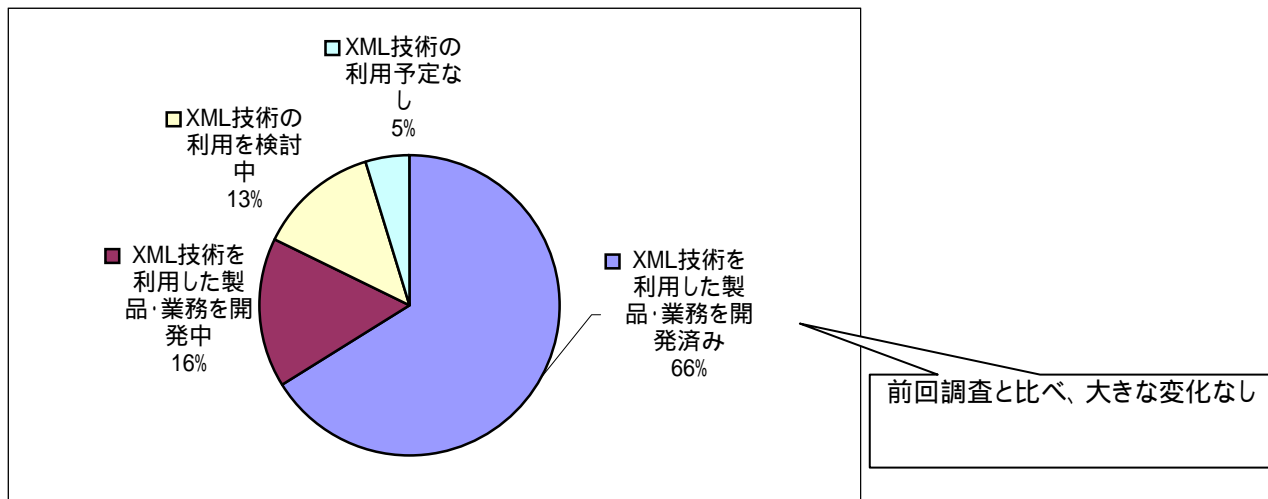
- ・会員企業の社員が会員企業であることを知らないことが多いように感じる。
所属社員がもっと気楽に参加できるような仕組みを考えていく必要があるのでは？

【問題提起】

- ・テーマがどんどん細分化されて、1つ1つの部会の体制が脆弱になっており、XMLコンソーシアム全体として求心力が弱くなっている印象がある。
- ・活動は多岐に渡り時代をキャッチアップしているが、XMLという看板が時代遅れになった。
団体名からの活動が想定しずらくなってきている。
- ・会員企業の経営や部会活動者の上司に対する入会・継続メリットとなるアピールがもっと必要。

XML普及度アンケート

6)XMLに対する取り組み状況



製品・業務を開発済み 製品・業務名:

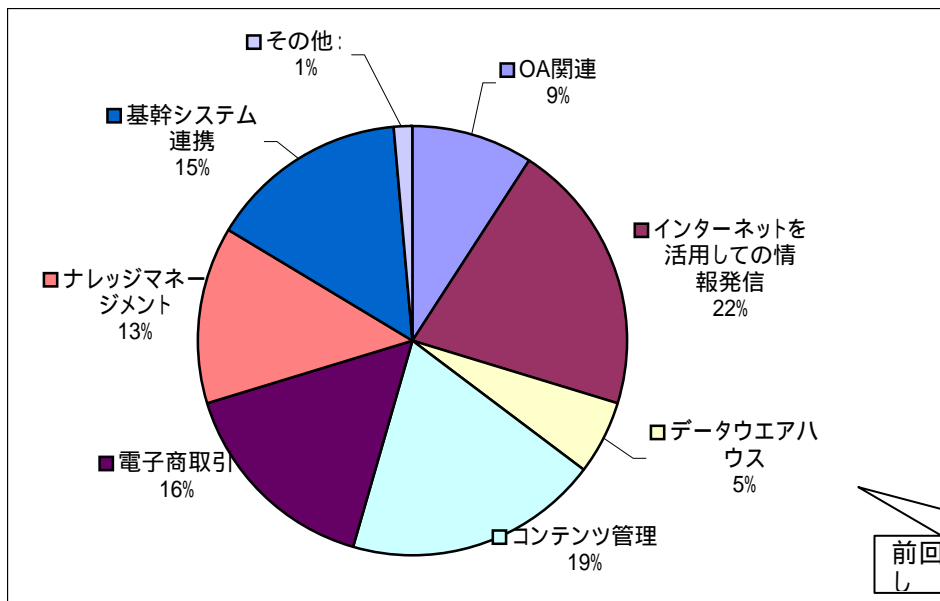
smartEDI等
Scarash
Voizy
Imperva SecureSphere Webアプリケーション・ファイアウォール
XMLデータベースTX1など
ほぼすべてのソフトウェア製品および各種サービス。 WebSphere Application Server、 WebSphere Extended Deployment、 WebSphere Integration Developer、 WebSphere Process Server、 WebSphere Adapters、 WebSphere Partner Gateway、 WebSphere ESB、 WebSphere Message Broker、 WebSphere Federation Server、 WebSphere Product Center、 WebSphere DataStage、 WebSphere MetaStage、 WebSphere QualityStage、 WebSphere Information Integrator、 WebSphere Data Power、 WebSphere Development Studio Client Advanced Edition for iSeries、 CICS TS、 IMS、 Host Access Transformation Services、 Rational Application Developer、 Rational Software Architect、 Lotus Domino、 Lotus Expeditor、 Lotus QuickPlace、 Lotus Workflow、 Workplace Collaboration Services、 WebSphere Portal、 DB2 UDB、 DB2 9、 OmniFind Enterprise Edition、 Records Manager、 WebSphere Information Integrator、 Tivoli Identity Manager、 Tivoli Access Manager、 Tivoli Composite Application Manager、 Tivoli Federated Identity Manager、 Tivoli Monitoring for Web Infrastructure、 他製品
Cosminexus , HiRDB , COBOL2002 他
当社製品・SI案件で多数使用中
Interstage Application Server 等
モールマッピングエンジン
ADOS XMLStudio、 ADOS Hestia、 Pluxis
SmartNavi
各種取り扱い製品全般にて
様々な場所で利用しております。
XSLMaker 3.0 / XSLMaker-Ex
授業にて展開中
FleXML
書籍の内容をXMLにて管理
XML DB: Cyber LUXEON、 NeoCore XMS
Cisco ACE XML Gateway
Karearea、 airLook、 airCube、 airSmartG
SecureStarXML
製品: ViewMaker for Web・Javaフレームワーク
DBバブリッシング
携帯電話向けASPサービス
Stylus Studio、 DataDirect XQuery
XDM(XML Distribution Manager): ブロードバンド化の進むパブリケーションの世界において、 これまでにない視点で制作現場のXML化、 DB化を推し進める画期的なソリューション。 Ayaori-RSS【文織】: RSS (RDF Site Summary)をMS-Officeに應用した画期的な文書作成・配信・管理システム。 「Word 2 XML」: Wordファイルから100%正確なXMLを生成し、待望の正確なインラインタグ変換機能も実現。 文書スタイルの変更も可能で、作業効率を向上させる各種執筆支援マクロも搭載。
CrossMission
RFIDシステム
Artix
XMLマスター資格対策研修

DSSSLprint, NEXTPublisher, NEXTPublisher/DMS, NEXTStylus
各種WEBシステム開発
XMLコンバータ
XMLコンバータ
QMS内部監査管理システム
ソフトウェア関連製品ではほとんどのものに使っている
コンテンツ管理システム
XML + XSL-FOで弊社刊行物の一部を組版しています
印刷業務用ソフトウェアFACILIS
api-match.com
受託先より毎年数件ある。
Xmaler, BixPal, BTONIC、...
DataSpider Servista
開発案件にて利用
各種業務システム
Allora, XMLVison
電子マニュアル
SONIC ESBを利用した連携システム等
SI案件の中
E - TAX
METAWORKS

利用予定なし 理由:

情報収集中
業務の内容が、クラサバ系システムの開発の為
もちろんいろいろな場面でXMLは使っていますが、製品の前面には打ち出していません。

7)XML技術の適用領域として適するもの(複数選択)

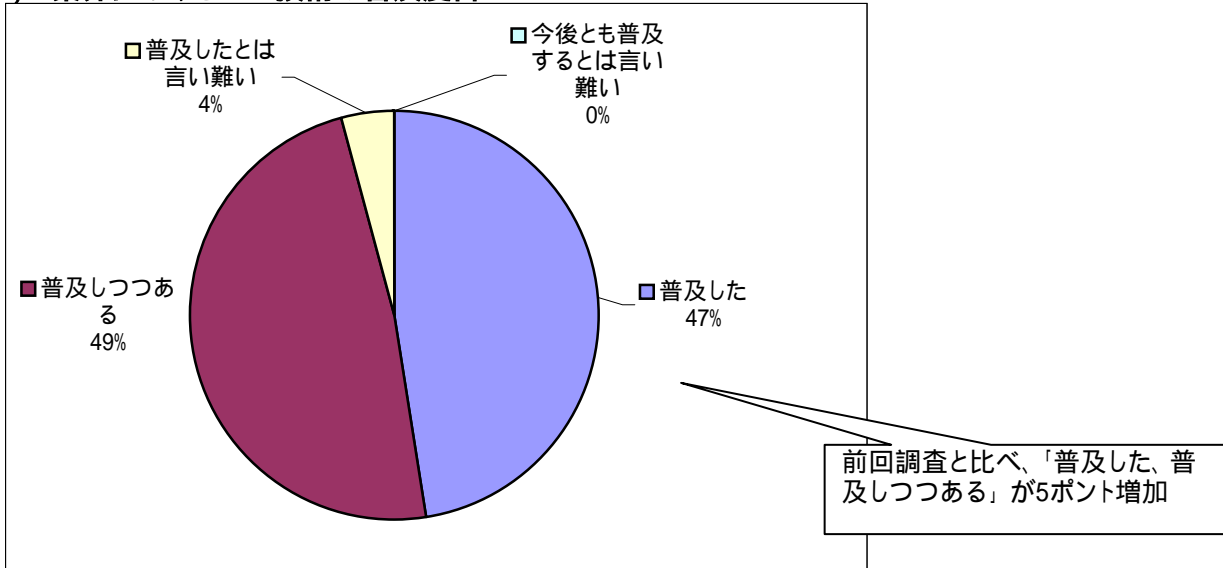


前回調査と比べ、大きな変化なし

その他:
内部統制
インターネットを活用した組織間のデータ流通
ソフトウェア開発、システム管理
Webアクセシビリティの改善、機械翻訳、
検索エンジンとの連動

8) 日本におけるXML技術の普及度合い

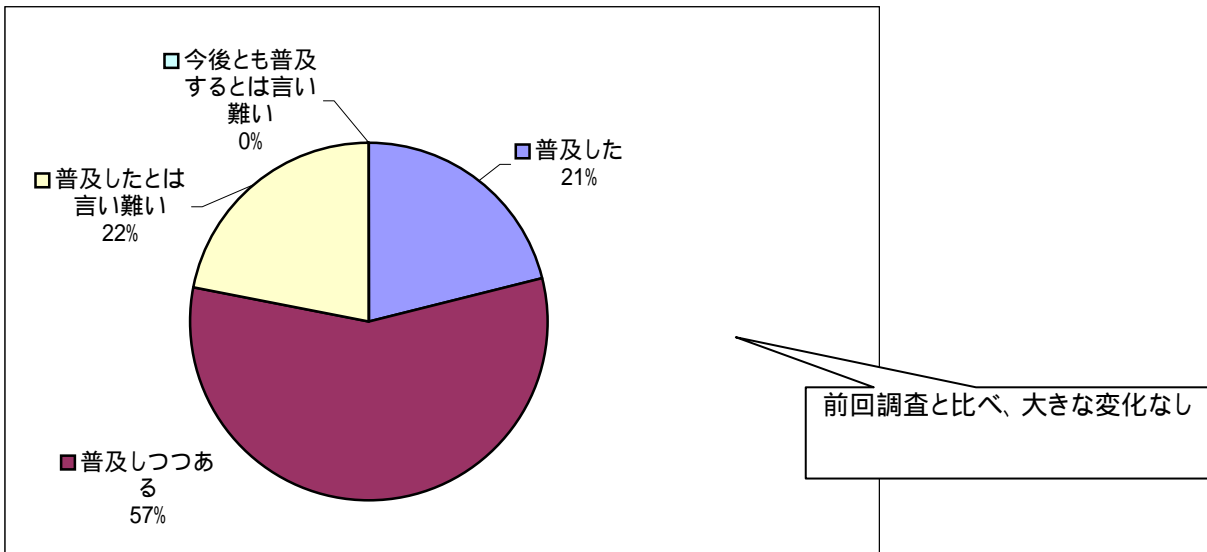
8 - 1) IT業界におけるXML技術の普及度合い



普及したとは言い難い 理由:

技術者の知識不足
過去のデータが多くあるため
XML製品を売るIT企業はあっても、XML製品を扱えるSEは少ない。 XMLという言葉を入ると、提案ベンダーが減る。
製品の引き合いが少ない

8 - 2) ユーザー企業におけるXML技術の普及度合い

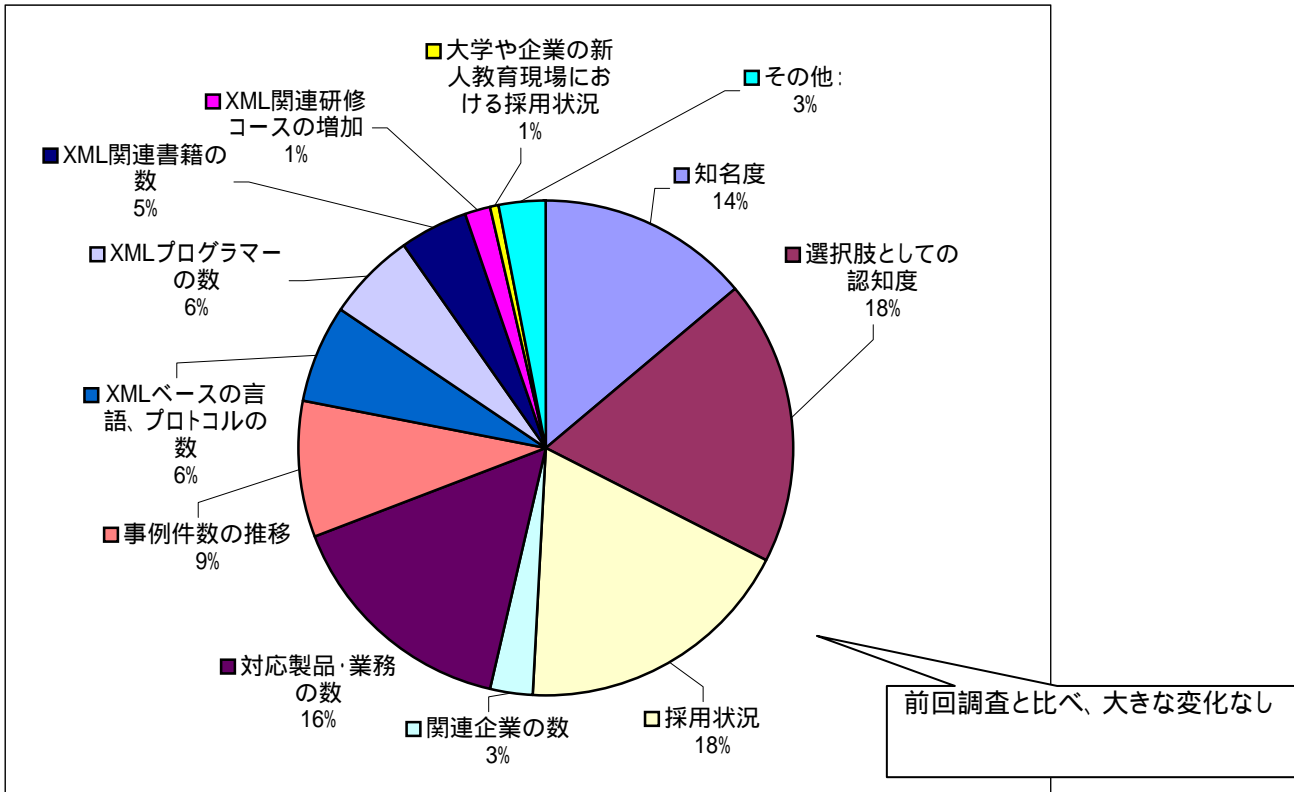


普及したとは言い難い 理由:

中堅・中小企業には広がっていない
XMLは用いられているが、XMLでなくても実現可能なアプリばかりである。
導入企業が少ない
知っているが導入はしていないケースが多いため
知っている技術者がまだ少ない
ユーザー様が直接XMLを意識する必要がないのが理想です
地方では全然認知されていない
XML化デジタル化が有効と分かっていても、紙媒体からの移行が難題
過去のデータが多くあるため
まだまだ選択肢としての認知度が低い
旧来の仕組みからの拘束
同業社の中での導入事例の少ない。(公開情報が少ない。)
XMLへの過度の期待がある一方で先に作りこみを行い後からXMLへの設計変更が困難であるケースを多く見受け
利用している分野、そうでない分野の差が未だ大きい、 またリソース的にも未だ採用するメリットを出せない企業も多い

業界により普及度が異なる
XMLが裏方で利用されることが多いため

9) 上記設問を回答するにあたり、普及度合いを判定した基準(複数選択)

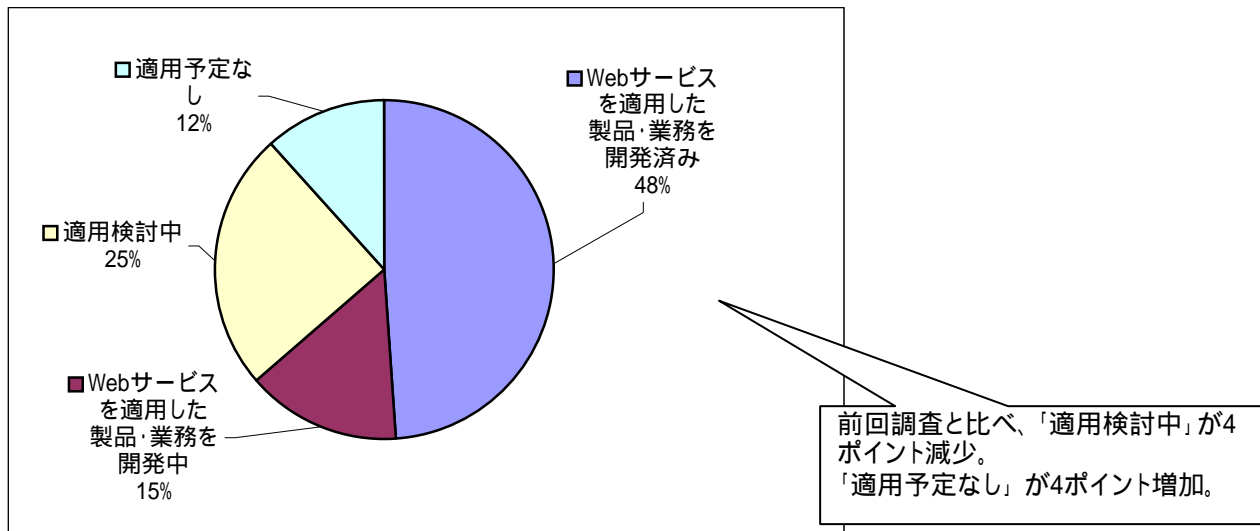


その他:

XMLの特性を生かしたアプリがどれだけ普及しているか?
現場での感触
既に各社製品の基盤技術として使用され、特にユーザ企業については技術的にフォーカスする部分ではないと考えます
特別に取りざたされなくなったから。コモディティ化した?
ユーザー様が直接XMLを意識する必要がないのが理想だから
説明しなくても知っている顧客がほとんどになった
過去のデータフォーマットが壁
採用をしていても話題にならないこと
各種標準規格(例:印刷におけるJDF)のわずかずつの普及
弊社で開催しているXML関連トレーニングコースで色々な分野の顧客が受講されている

Webサービス普及度アンケート

10) Webサービスに対する取り組み状況



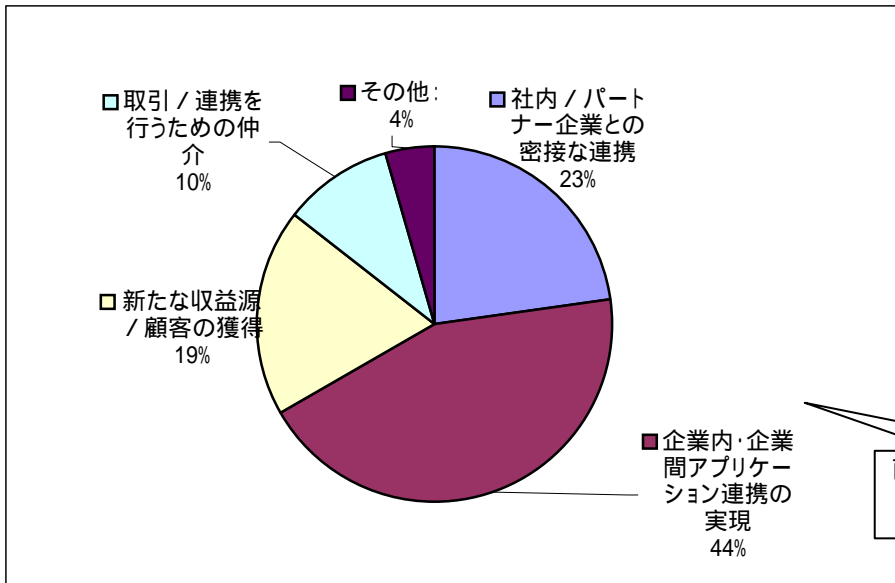
適用した製品・業務を開発済み 製品・業務名:

Imperva SecureSphere Webアプリケーション・ファイアウォール
ほぼすべてのソフトウェア製品および各種サービス。
WebSphere Application Server、 WebSphere Extended Deployment、 WebSphere Integration Developer、 WebSphere Process Server、 WebSphere Adapters、 WebSphere Partner Gateway、 WebSphere ESB、 WebSphere Message Broker、 WebSphere Federation Server、 WebSphere Product Center、 WebSphere DataStage、 WebSphere MetaStage、 WebSphere QualityStage、 WebSphere Information Integrator、 WebSphere Data Power、 WebSphere Development Studio Client Advanced Edition for iSeries、 CICS TS、 IMS、 Host Access Transformation Services、 Rational Application Developer、 Rational Software Architect、 Lotus Domino、 Lotus Expeditor、 Lotus QuickPlace、 Lotus Workflow、 Workplace Collaboration Services、 WebSphere Portal、 DB2 UDB、 DB2 9、 OmniFind Enterprise Edition、 Records Manager、 WebSphere Information Integrator、 Tivoli Identity Manager、 Tivoli Access Manager、 Tivoli Composite Application Manager、 Tivoli Federated Identity Manager、 Tivoli Monitoring for Web Infrastructure、 他製品
Cosmiexus 他
当社製品群、 SI案件で使用
Interstage Application Server、 等
顧客業務システムのため詳細名は割愛
Pluxis Server、 ADOS XMLStudio
取り扱い製品全般にて
XSLMaker - Ex
IC3(アイシーキューブ)
Cisco ACE XML Gateway
携帯電話とCRMを結合したASPサービス
CrossMission Webサービス・フロー・コントローラ
BitWay
Artix
当社ので製品すべて
PHP関連研修・Ajax関連研修
HYPATWeb総合サービス
api-match.com
受託した案件が数件ある
RailGo、 BTONIC、 GeOAP、 BizPal、 MyBooks、 …
DataSpider Servista
OAN-API、 AX config master
開発案件にて利用
各種業務システム
リクルートAPI
社内システム(ソフトウェアメトリクス収集)

適用予定なし 理由:

XML Web Service を使う必要性が今のところないため
Webを利用した開発業務が少ない
現状、必要となる分野ではない
不明です。
案件なし

11) Webサービスを適用してみたい対象領域(複数選択)



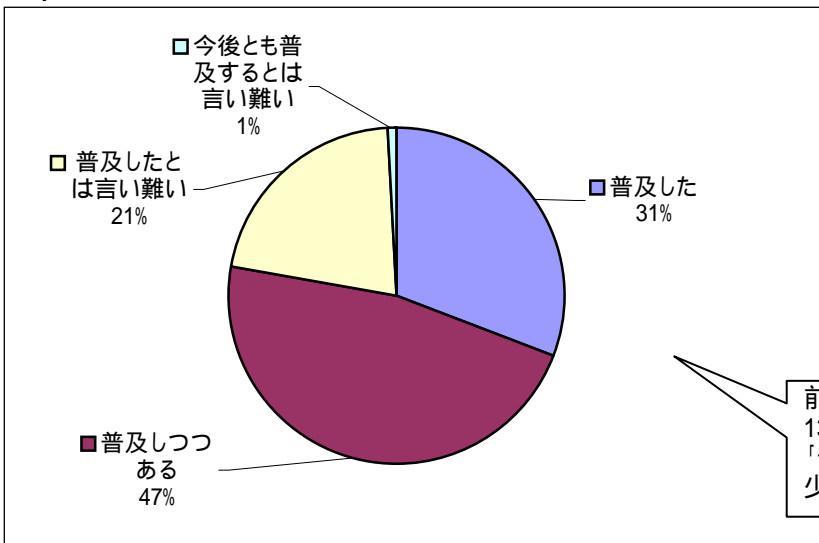
前回調査と比べ、大きな変化なし

その他:

SaaS
基幹業務との連携
不明
不明

12) 日本におけるWebサービス技術の普及度合い

12 - 1) IT業界におけるWebサービス技術の普及度合い

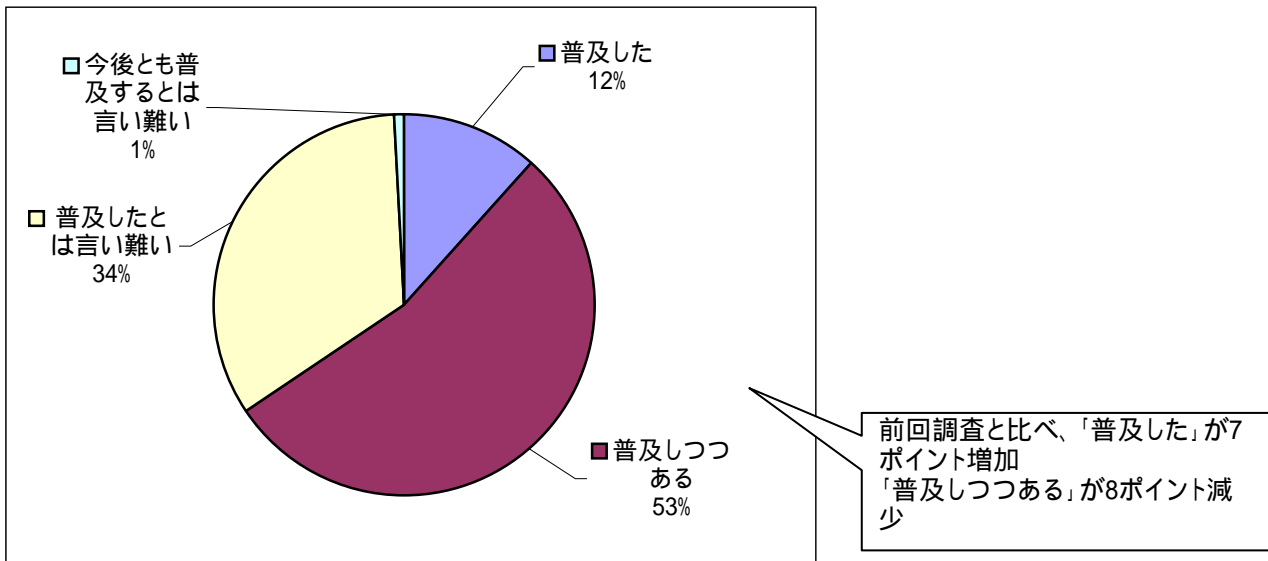


前回調査と比べ、「普及した」が13ポイント増加
「普及しつつある」が11ポイント減少

普及したとは言いがたい 理由:

中小企業には広がっていない
技術者の数が少ない
全体から見て、量が少ない
価格が高い
サービスに触れる機会が少ない
技術の浸透しているとはいえない
まだ、社内利用レベルと感じる。公開されたWebサービスがもっと増えてほしい
情報セキュリティの厳格化に伴い、Webやネットの有効活用に影響があるのではないか。
ある程度の規模がある会社、事業では普及していると思うが、例えば社内システムなどのシステムではまだまだである
信用度が低い
関係する機会がない
事例が少ない
採用している企業が、未だ多くない状況
ビジネスが立ち上がっていない

12 - 2) ユーザー企業におけるWebサービス技術の普及度合い



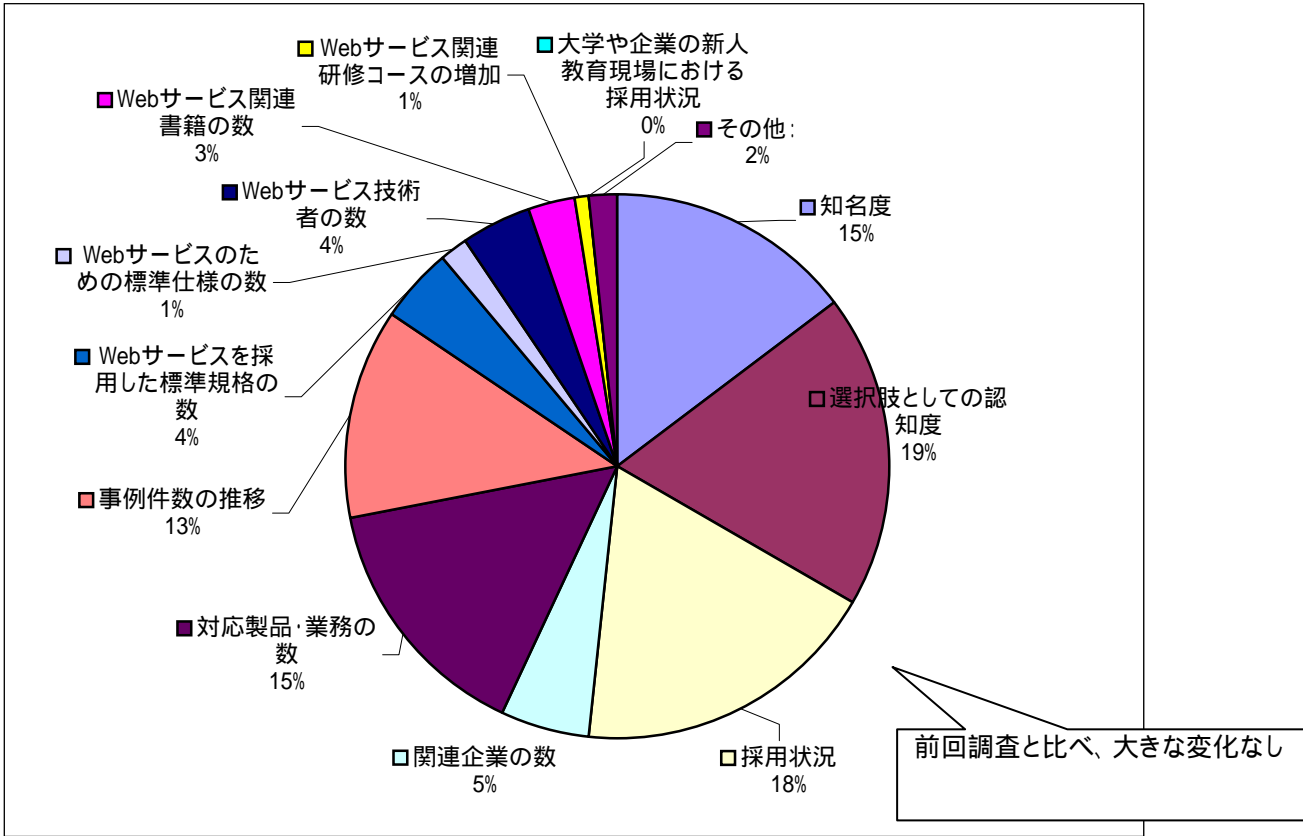
普及したとは言い難い 理由:

導入企業が少ない
事例が少ない
ユーザは技術的なことを知らなくても、動けばよいという人が多い
事例が少ない
知名度が低い
サービスが少ない
WEbサービスとWebアプリケーションサービスの違いも分からない。
選択肢が上がってこない。上げてても、メリットを感じてもらえない。メリットをうまく説明できない
特に中小企業で、いまだに、オフコンや汎用機をベースとしたシステムが稼働している。
技術的な認識の不足
使用しているのを余り見た事がない。
一部のシステムに導入されている状況で、例えば社内システムなどのシステムではまだまだである
サービス化からはじめなければならない
認知されていない
まだ、企業の中でサービス化や基盤の構築が遅れている
報道されているほどには導入が進んでいることが肌で感じられないため
周りで話題を聞かない。
外にデータを置くアレルギーがある
エンタープライズ用途での実事例をあまり聞かない

今後とも普及するとは言い難い 理由:

事例が少ない、難しすぎる、新技術の登場で違った形で普及する

13) 上記設問に回答するにあたり、普及度合いを判定した基準(複数選択)

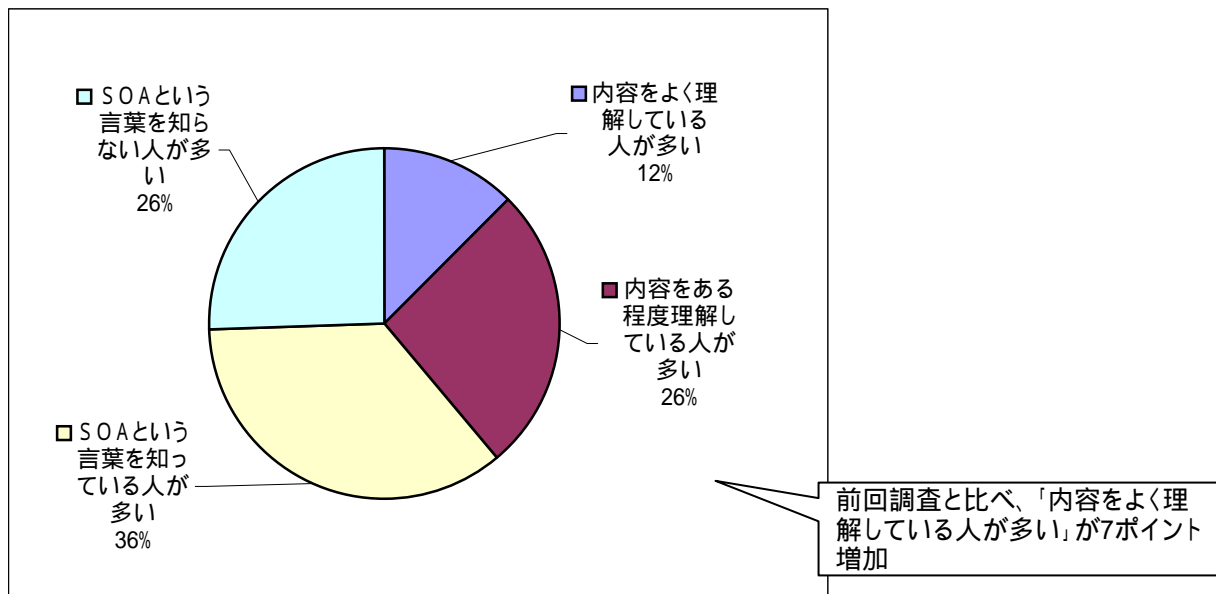


その他:

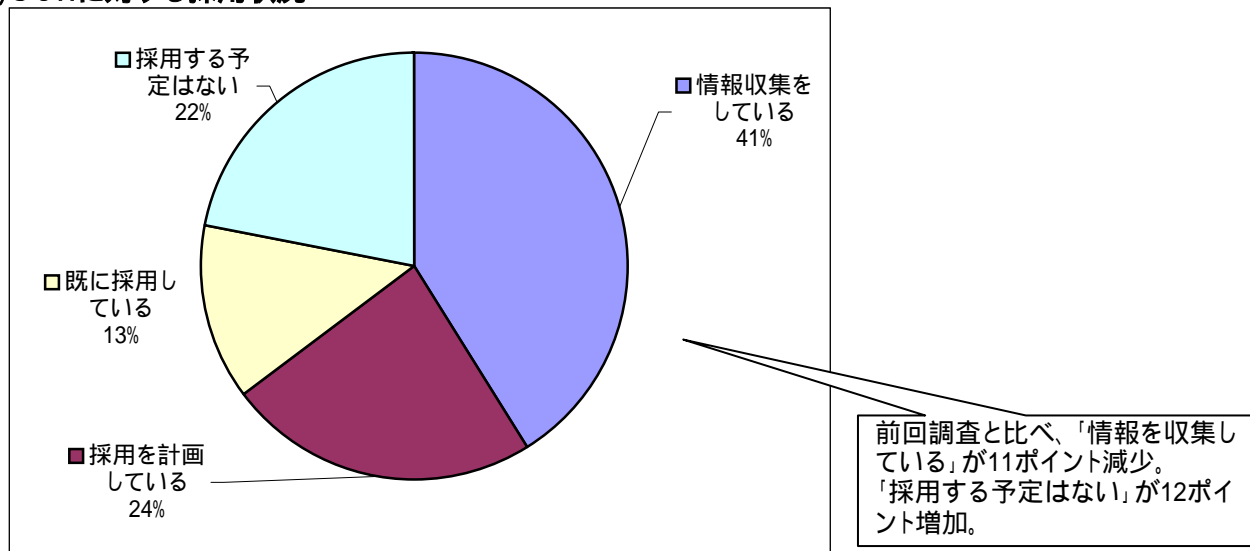
現場での感触
XMLと同じく各社製品の基盤技術として使用され、特にユーザ企業については技術的にフォーカスする部分ではないと考えます
特別に取りざたされなくなったから。コモディティ化した？
Webサービス技術自体が複雑になり細分化し過ぎている
技術だけではなく、社会的な枠組みが影響を与えている
基盤インフラでの採用

SOAに関するアンケート

14) SOAに関する社内の理解状況について



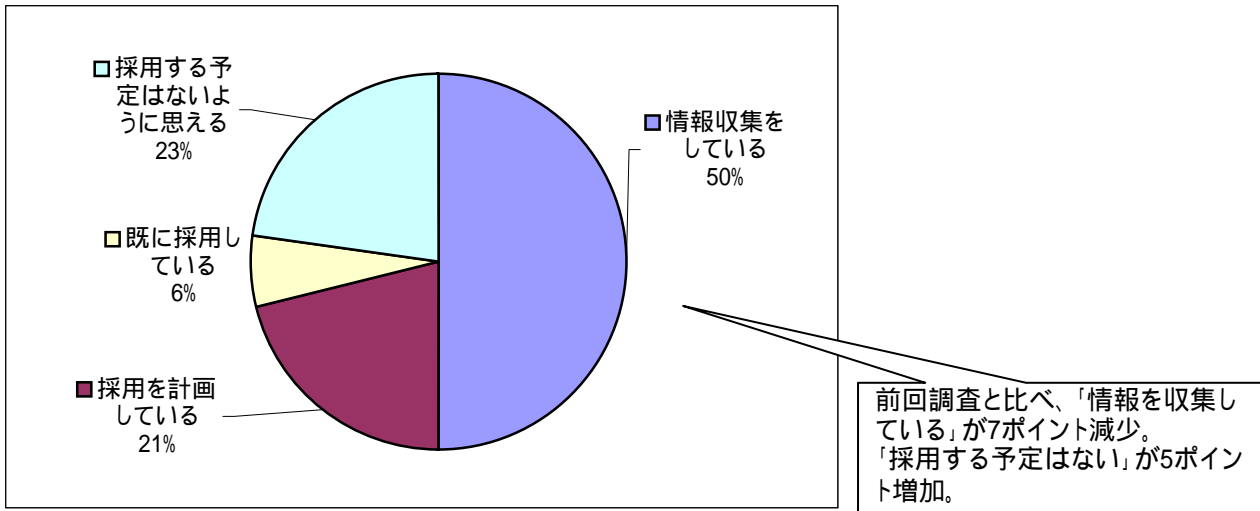
15) SOAに対する採用状況



採用する予定はない 理由:

SOAの優位性が全くわからない。
弊社の社内システムには必要ないため
概念先行で「採用」を客観的に判断できない。
SOAやXMLに対するリテラシーを持ったユーザー側の担当者があまりいないため
採用分野がない
弊社全体の状況は把握しておりません
要するコストに見合うメリットを見出しにくい
積極的に採用する土壌がない
認知度が低く、社内技術者がいないため選択されない
不明です
適用する業務がない為 開発案件やコンサル案件としては対象あり
技術開拓していく人材に乏しい

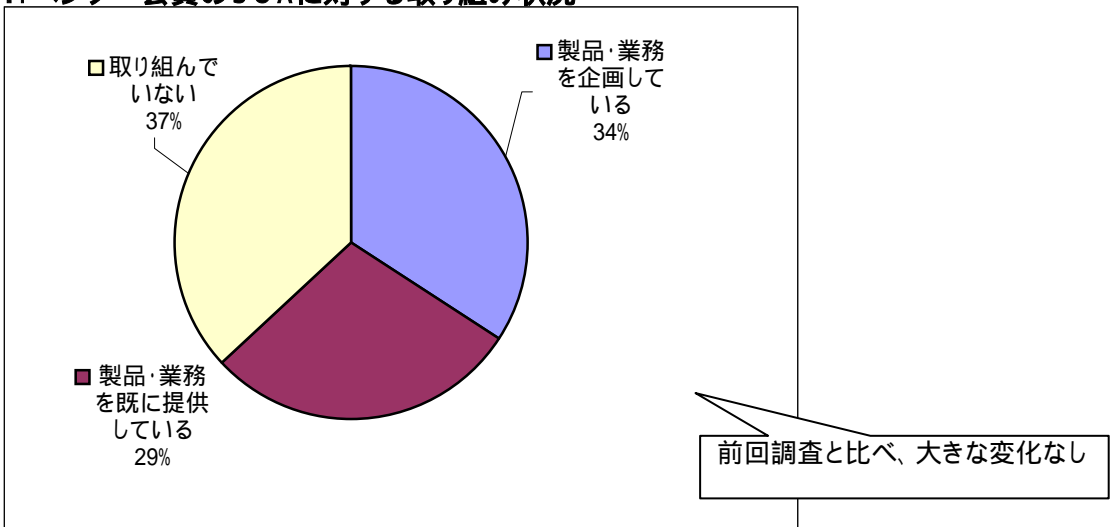
16) ユーザー企業における取り組み状況



採用する予定はないように思える 理由:

SOAを使わなくてもシステム構築できる。
概念先行で「採用」を客観的に判断できない。
SOAやXMLに対するリテラシーを持ったユーザー側の担当者があまりいないため
特別な取り組みを推し進めるようなものではないように思います
名前しか知られていないので、それでどうなるの?と言われたらおしまい
知名度が低い
企業統合でもない限り専用システムで事足りているのではないか
そういう提案をまだしていない
弊社全体の状況は把握しておりません
未経験の技術に対し、抵抗がある。
問い合わせが少ない
ユーザー企業の状況は不明です。

17) ITベンダー会員のSOAに対する取り組み状況



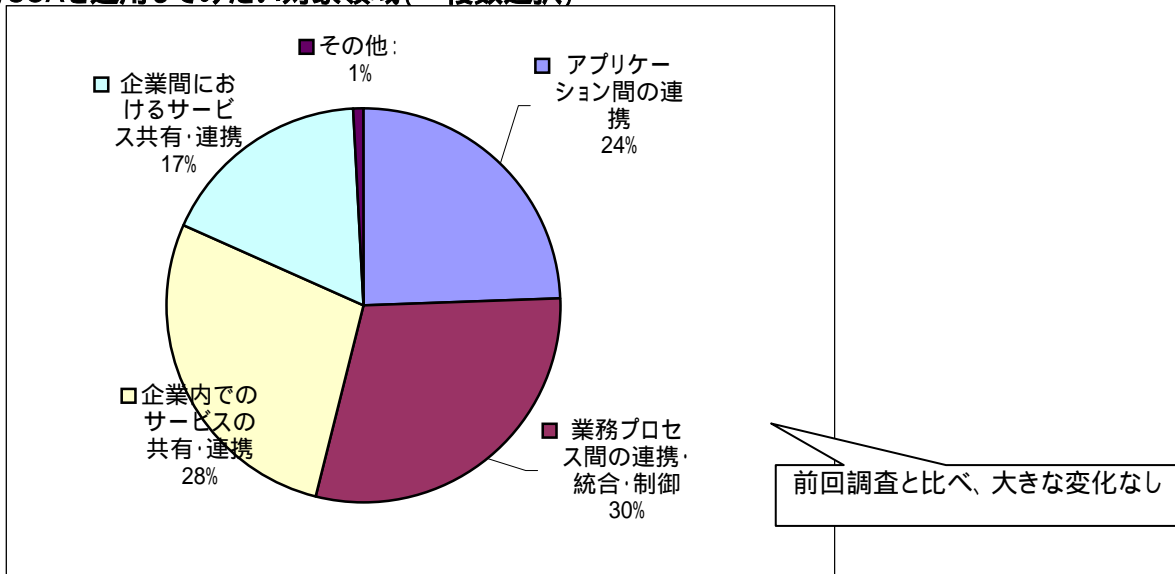
製品・業務を既に提供している 製品・業務名:

ほぼすべてのソフトウェア製品および各種サービス。 WebSphere Application Server、 WebSphere Business Modeler、 WebSphere Integration Developer、 WebSphere Process Server、 WebSphere Business Monitor、 WebSphere Enterprise Service Bus、 WebSphere Message Broker、 WebSphere Adapters、 WebSphere Partner Gateway、 WebSphere Service Registry and Repository、 WebSphere Portal、 Workplace Managed Client、 Lotus Expeditor、 IBM Information Server、 Rational Application Developer、 Rational Software Architect、 Rational Software Delivery、 Tivoli Composite Application Manager、 他製品
Cosminexus , HiRDB 他
Interstage Service Integrator、 Interstage BPM Flow、 Interstage BPM Monitoring、 CentraSite、 EVOLUO、 等
Pluxis
コンサルティングやSI
Cisco ACE XML Gateway
BEA製品すべて

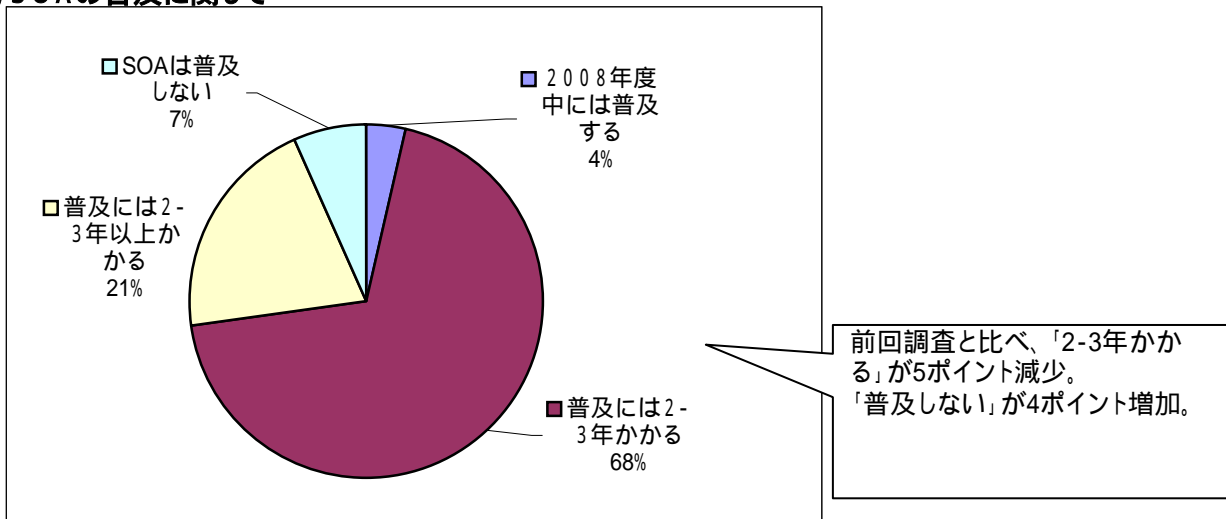
取り組んでいない 理由:

会社として取り立てては取り組んでいない。
対象市場において差別化のポイントにならない。
検証テスト、情報収集中の状況です。
特別な取り組みを推し進めるようなものではないように思います
採用分野がない
要員的に取り組める状況にない
現状、具体的な案件が無いため
業務の整理改革が必要で手に負えない。
以前調査していたが、適用領域が無かったため
積極的に採用する土壌がない
他の仕事で手一杯
IT技術者がいないため
需要が少ない
特に今までSOAと接点がありませんでした

18) SOAを適用してみたい対象領域(複数選択)



19) SOAの普及に関して



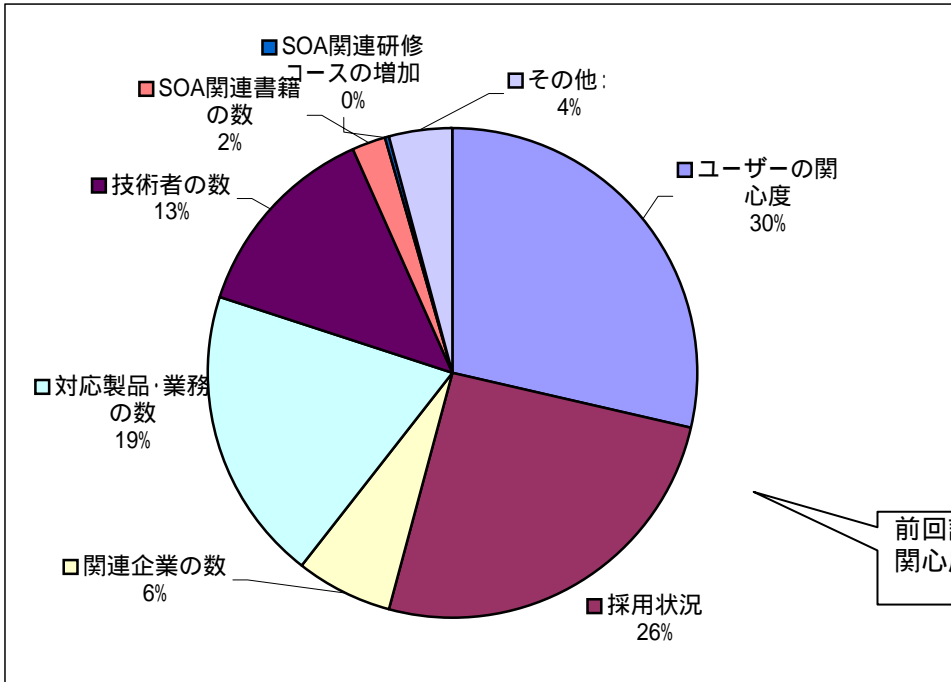
普及には2-3年以上かかる 何年以上:

4 - 5年?
3
5年程度
5 - 6年
5年以上
4-5年
5年以上

SOAは普及しない 理由:

難しすぎる、新技術の登場で違った形で普及する。
概念先行で「採用」を客観的に判断できない。
名前しか知られていないため
中小企業ではお金がかかり過ぎ、導入が困難。
SOAではないものをSOAと呼ぶ可能性はあるが、今目指しているSOAは、業務要件が現場で十分に把握されていない以上、普及はしない
別アプローチにて普及した後に結果的にSOAだったということになるのではないか？(SaaSの類など)
なんともよくわかりません。

20) 上記設問に回答するにあたり、どのようなことを念頭において普及予測をされたか(複数選択)



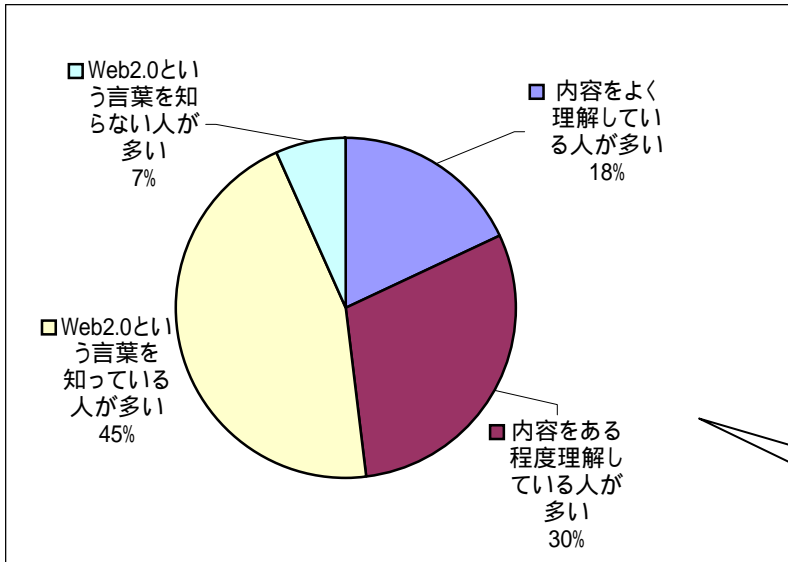
前回調査と比べ、「ユーザーの関心度」が5ポイント増加。

その他:

SOAの概念がまだバラバラ
対応を謳っている製品の認知度
システムを刷新する速度の問題
内容を知っている人の数
日本企業の特長性
勘違いしているベンダーとユーザの多さ
SOA関連技術者との懇談
ユーザ企業で未だ導入出来る環境(コスト、メリット、要員)が揃っていないと感じる

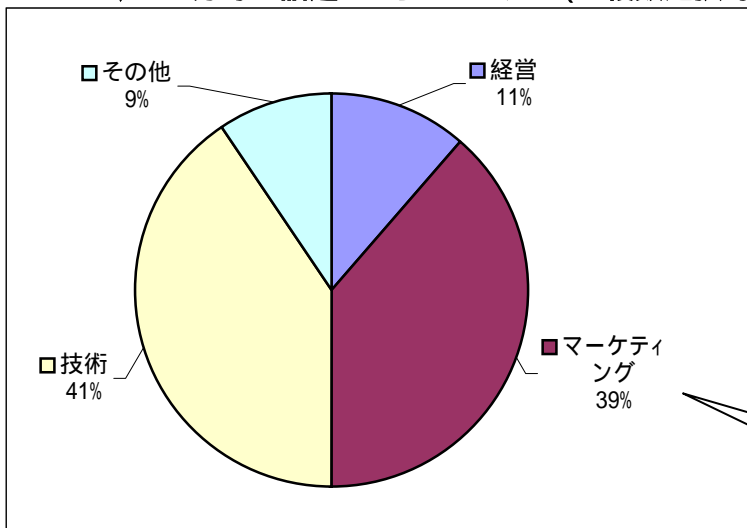
Web2.0に関するアンケート

2 1) Web2.0に関する社内の理解状況



前回調査と比べ、「内容をよく理解している人が多い」が9ポイント増加。

2 2) Web2.0は、どの分野の話題だと思われるか？ (複数選択可)

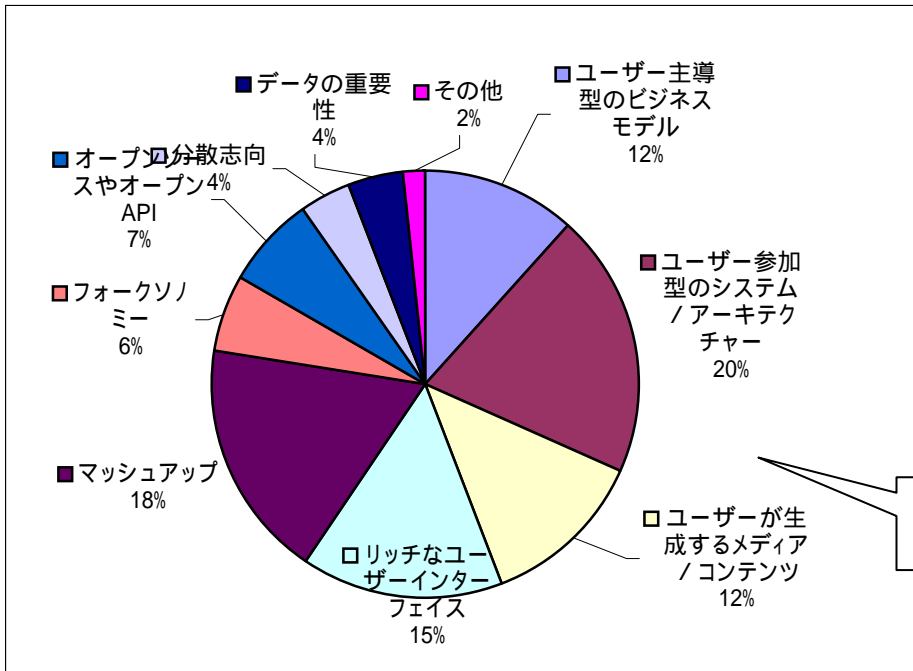


前回調査と比べ、大きな変化なし

その他

サービス、ビジネスモデル
社会科学
ビジネスモデルにも言及している
新しい形・またはそこに移行しようとしている過程そのもの
精神論
インターネットビジネス
IT業界
イメージ戦略
SNSに代表されるネットワークコミュニケーションのあり方
LOB, 非ITのオフィスワーカー参加型
コミュニケーション
人材育成
Webの適用領域を変えるトレンド
マインド、ヒューマン
この言葉は「概念」であり、特定の分野に関するものではない
回答者はWeb2.0という言葉を知りません
使うユーザとして

2 3) Web2.0と聞いて、何をイメージするか？ (複数選択可)

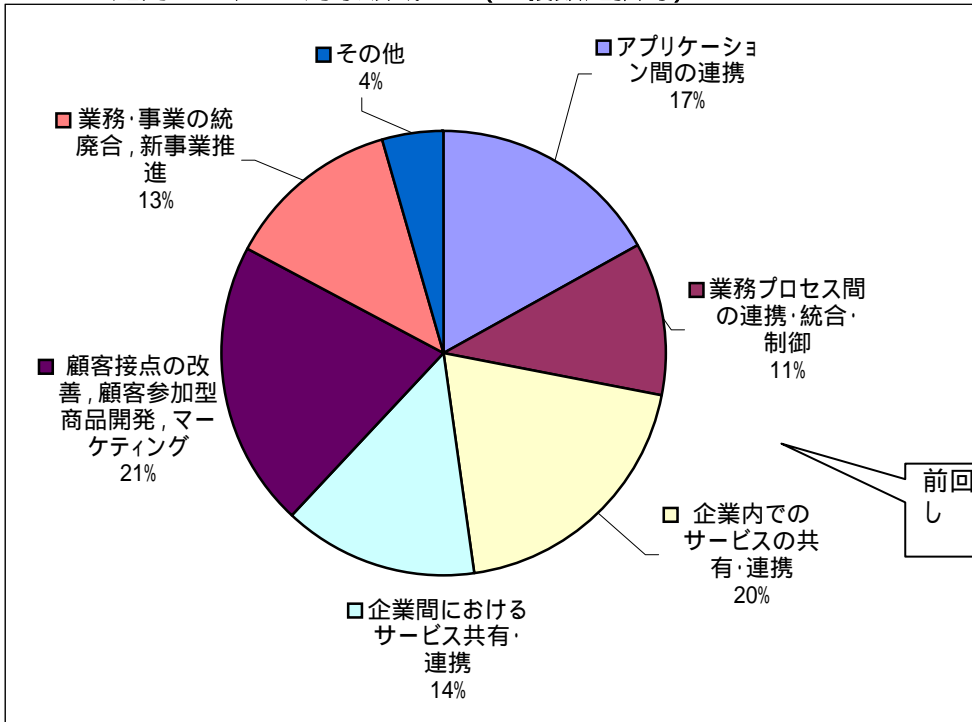


前回調査と比べ、大きな変化なし

その他

多種データ, サービスの利用と加工
ゆるく、はやく、ひろく
精神論
やたらと 2.0 がつく最近のサービス名
XML
SNSに代表されるネットワークコミュニケーションのあり方
回答者はWeb2.0という言葉を知りません
メタデータの重要性

24) Web2.0を適用してみたい対象領域は? (複数選択可)



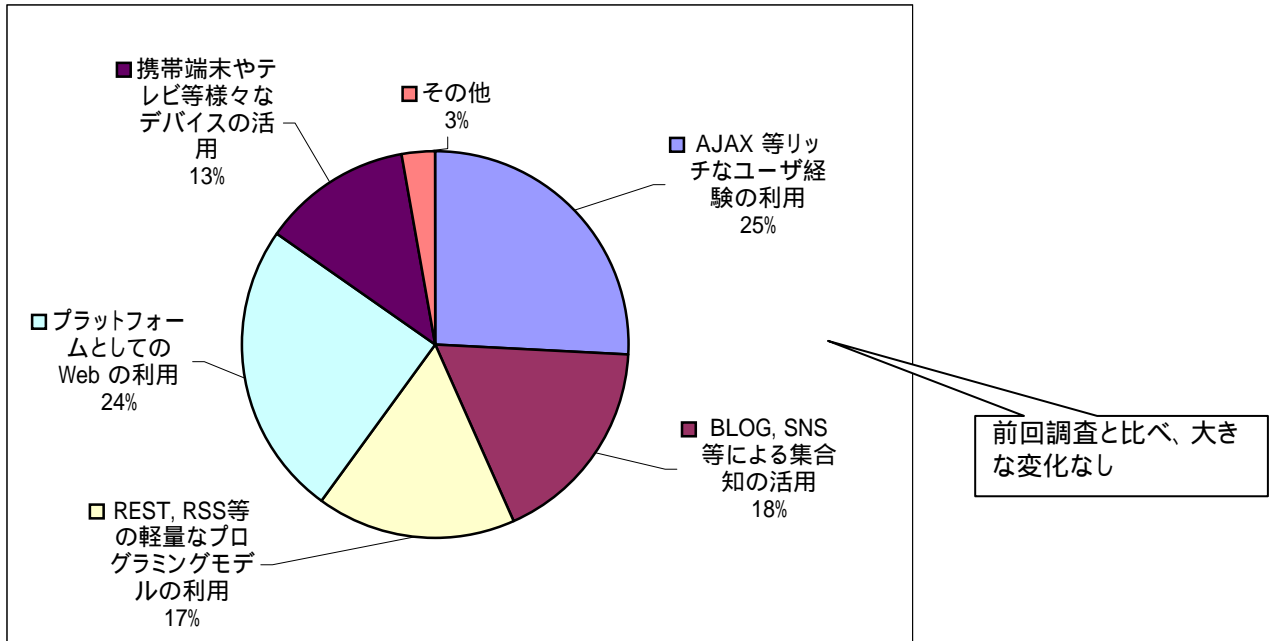
前回調査と比べ、大きな変化なし

その他

なし
経営者
情報共有やコラボレーション環境として。
ない
多岐にわたる旅行業界の観光情報や在庫確認、予約サービスなど
公開サイト間のAPI連携
この選択は、観点が偏っているように思います。連携という言葉で無ければ、上記3つも にします。

回答者はWeb2.0という言葉を知りません
現状特になし
社内のナレッジマネジメント

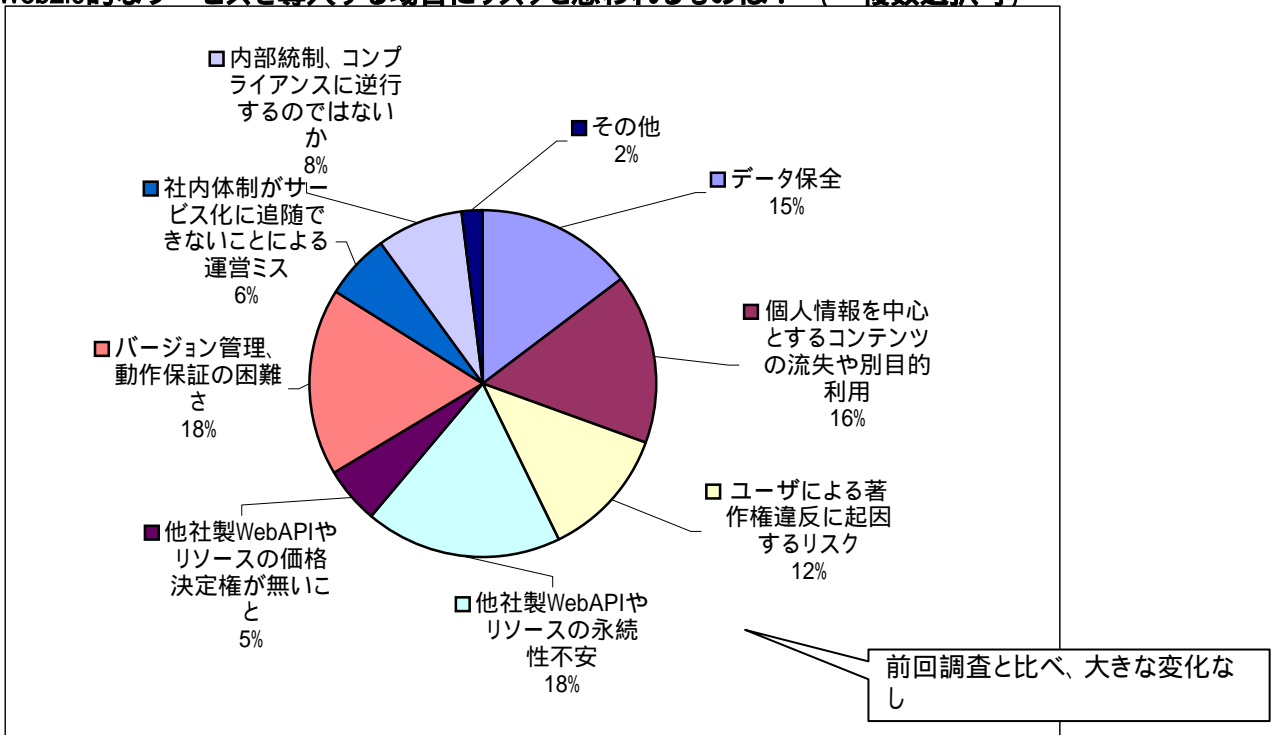
2 5) Web2.0のどの原則、側面がビジネスにとって重要または有用と考えられるか？ (複数選択可)



その他

データは次世代の「インテル・インサイド」
なし
人間の行動規範
ない
カーナビとの連携、コピキタスサービスへの活用
自社Webサイトから他の公開サイトへのAPI連携の実装の業務利用。
回答者はWeb2.0という言葉を知りません

2 6) Web2.0的なサービスを導入する場合にリスクと思われるものは？ (複数選択可)

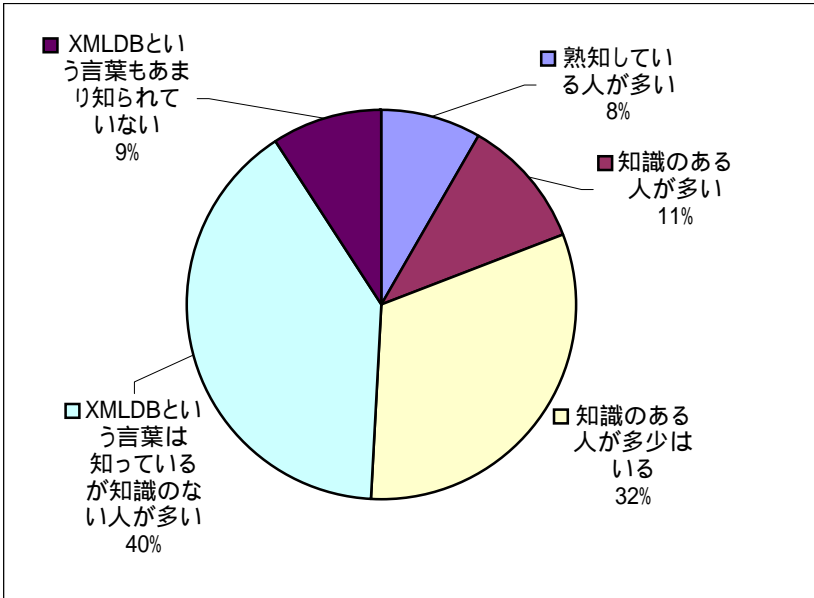


その他

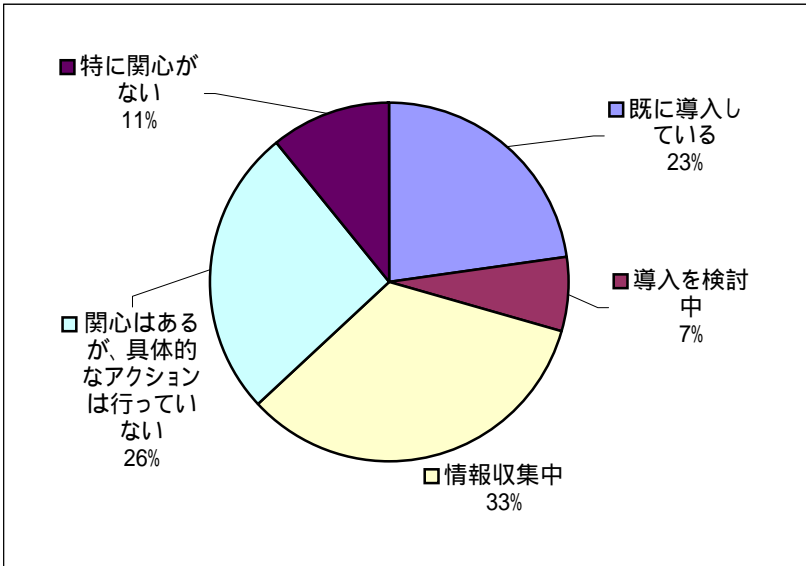
技術詳細を知らないため回答不可
セキュリティ
経営者及び決定権を持つ人の認識、知識
イメージだけが先走りしていること

回答者はWeb2.0という言葉を知りません
不明

XMLデータベース(以下XMLDB)に関するアンケート
27)XMLDBに関する社内の認知度



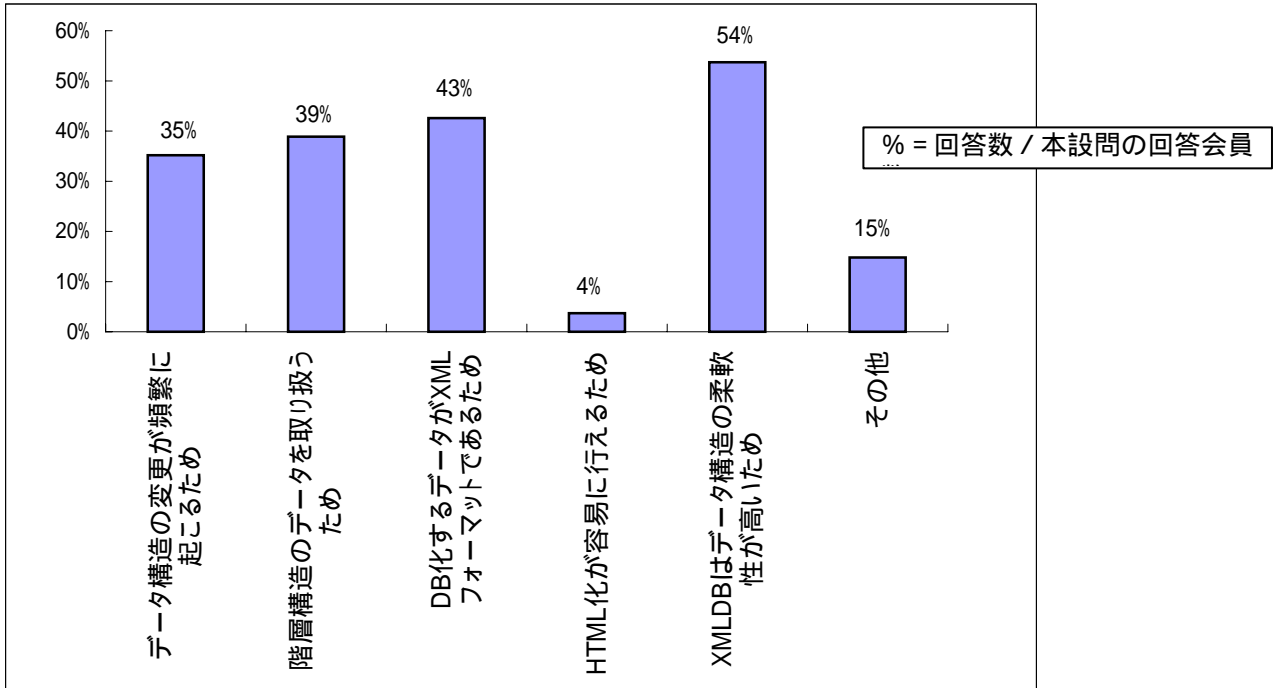
28)XMLDBに対する取組み/採用状況



特に興味がない 理由:

XMLDBを導入するメリットが分からない。
XMLの目的が、他システム連動なので、データ保持の必要がない
現時点ではイニシャルコストがかかりすぎるため。また、DBの活用を迫られるほどのコンテンツもない
XMLDBと連携する製品を開発・販売している

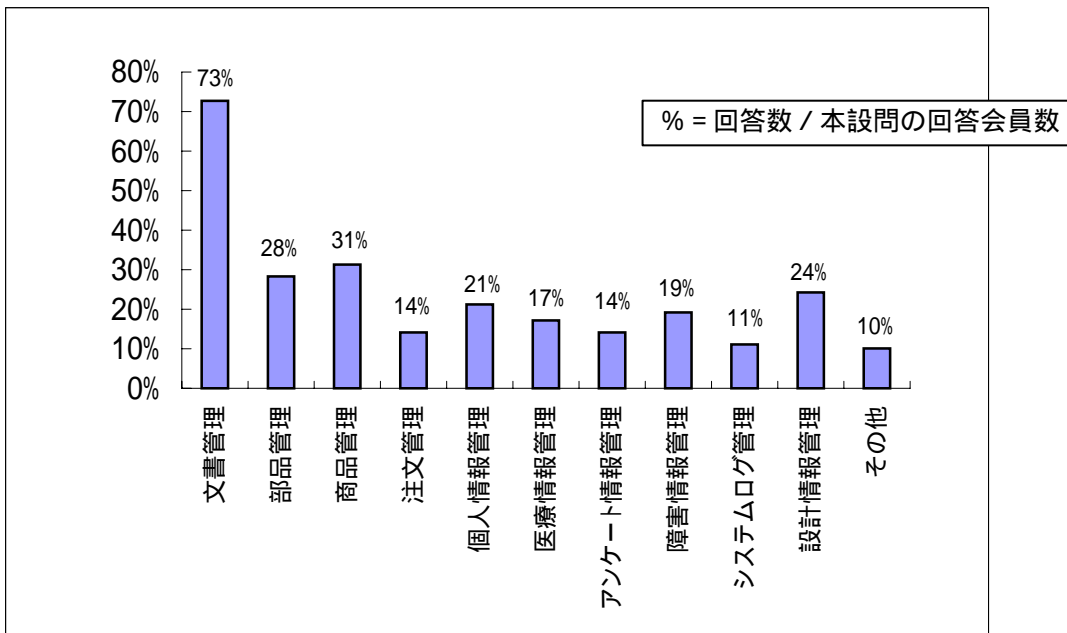
29)XMLDBの導入を検討している(またはすでに導入している)理由 (複数選択可)



その他

プロトタイプシステムでの利用で気軽に使えそう
以前は販売していた。現在不明。
検討していない。
技術的な検証の為
XMLを使用したアプリケーションの開発用
将来的な二次活用への拡張性
社内技術者の育成のため、XML適用システム開発の際に導入
大量データの管理、閲覧案件への対応のため

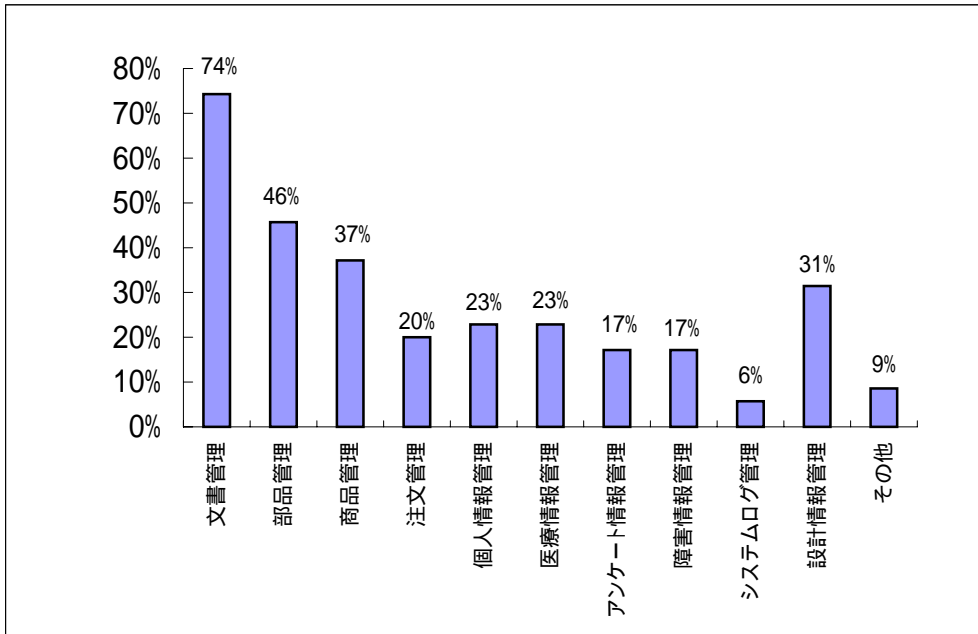
30 - 1) XMLDBを適用している / 適用してみたい対象業務 (複数選択可)



その他

技術詳細不明のため回答不可
非定型データを扱う業務、XMLデータを扱う業務一般
つながりの管理
カーナビゲーション
よく判りませんが、ウェブ向きでしょう
現在検討中
生産情報管理
就業情報
現時点では具体的利用イメージはない

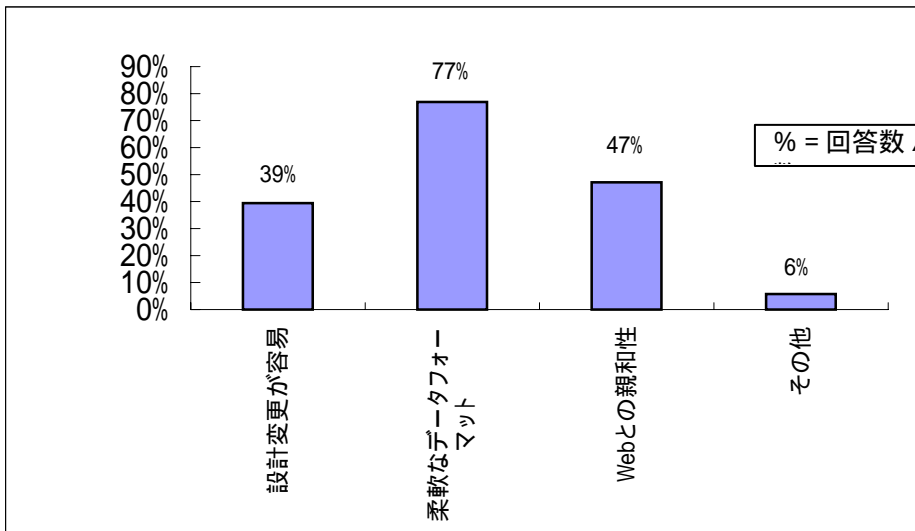
30 - 2)XMLDBを適用している / 適用してみたい対象業務 (複数選択可)
(すでに導入している / 導入を検討中と回答した35会員)



その他

非定型データを扱う業務、XMLデータを扱う業務一般
就業情報
カーナビゲーション

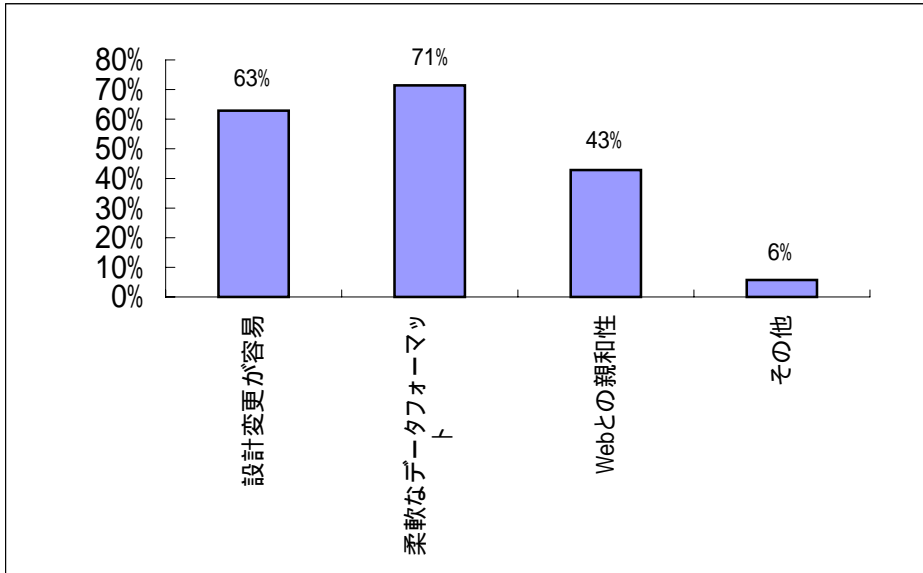
31 - 1)XMLDBのどのような点が有用である / 有用になるであろうと考えているか? (複数選択可)



その他

技術詳細不明のため回答不可
プロトタイプシステムでの利用で気軽に使えそう
ゆるいスキーマ
将来的な二次活用への拡張性
不明
現時点では具体的利用イメージはない

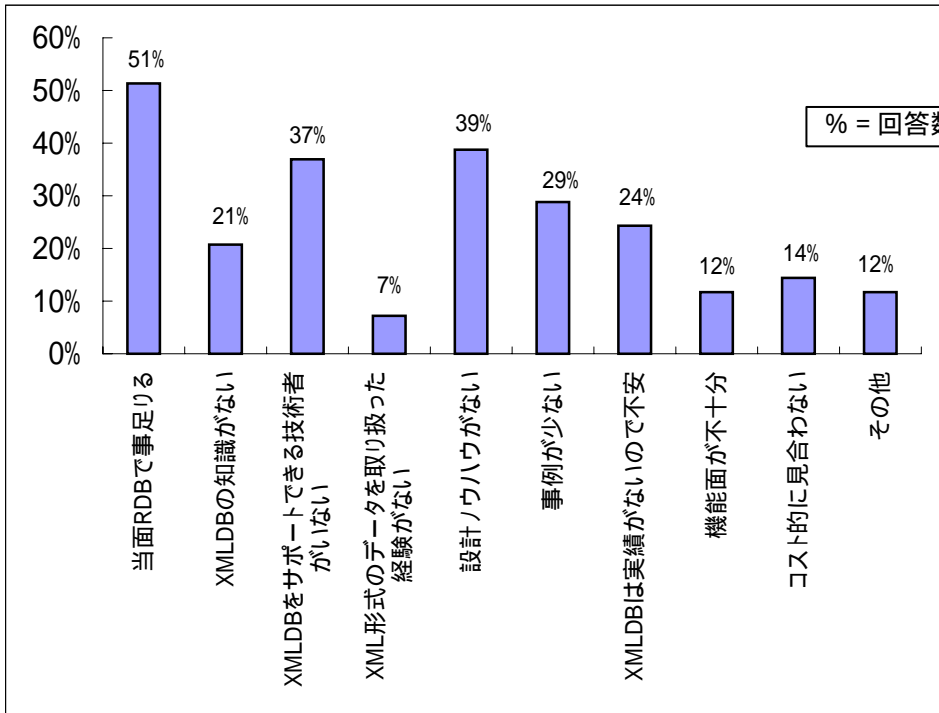
31 - 2)XMLDBのどのような点が有用である / 有用になるであろうと考えているか? (複数選択可)
(すでに導入している / 導入を検討中と回答した35会員)



その他

将来的な二次活用への拡張性
プロトタイプシステムでの利用で気軽に使えそう

32 - 1) XMLDBを導入する場合に懸念/障壁があるとすれば、何？ (複数選択可)

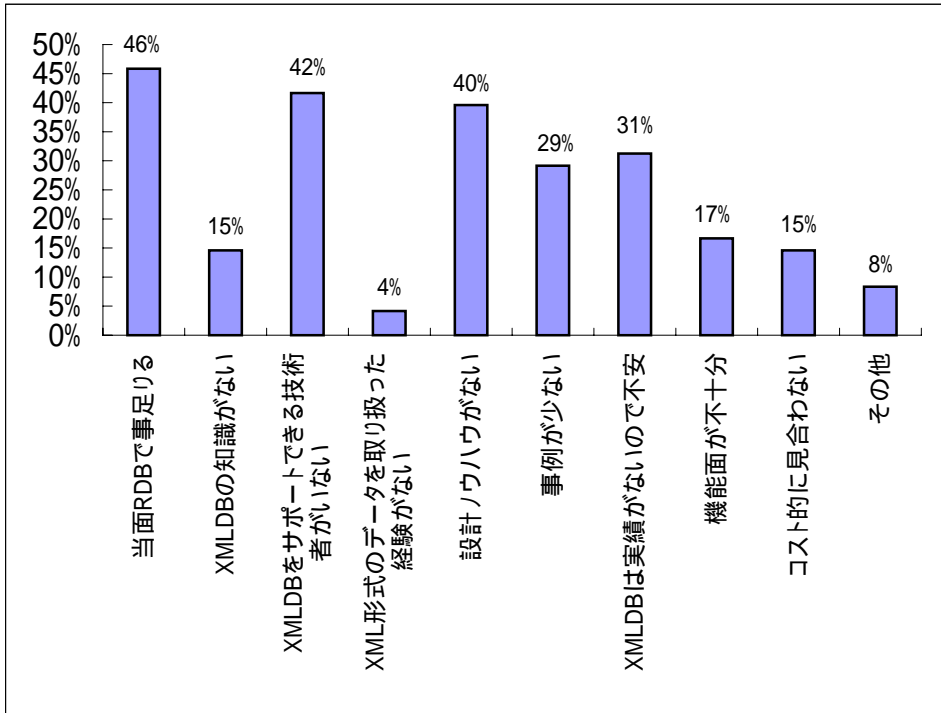


% = 回答数 / 本設問の回答会

その他

性能問題がある
セキュリティ、アクセス制御
大容量時、複雑化時の効率性に不安。
性能面で懸念がある
不明
RDBに比べ管理運用ノウハウが少ない
現在調査中
ユーザが採用しない
高額なため、敷居が高い
特に障壁はありません
採用の絶対的利点
不明
案件の性能要件への充足度

32 - 2) XMLDBを導入する場合に懸念/障壁があるとすれば、何？ (複数選択可)
(導入を検討中/情報を収集中と回答した48会員)

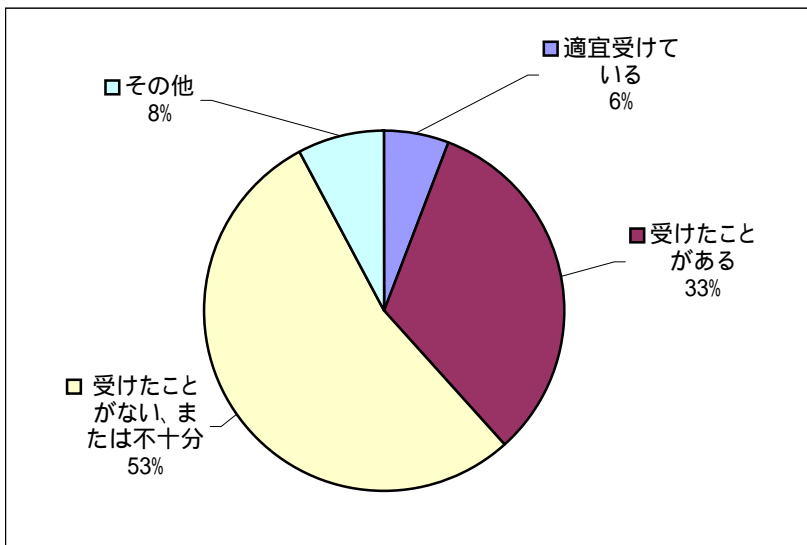


その他

大容量時、複雑化時の効率性に不安。
RDBに比べ管理運用ノウハウが少ない
現在調査中
採用の絶対的利点

【ユーザー企業への質問】

33) システムインテグレータやベンダーからXMLDB関連情報やXMLDBによる提案を受けているか？

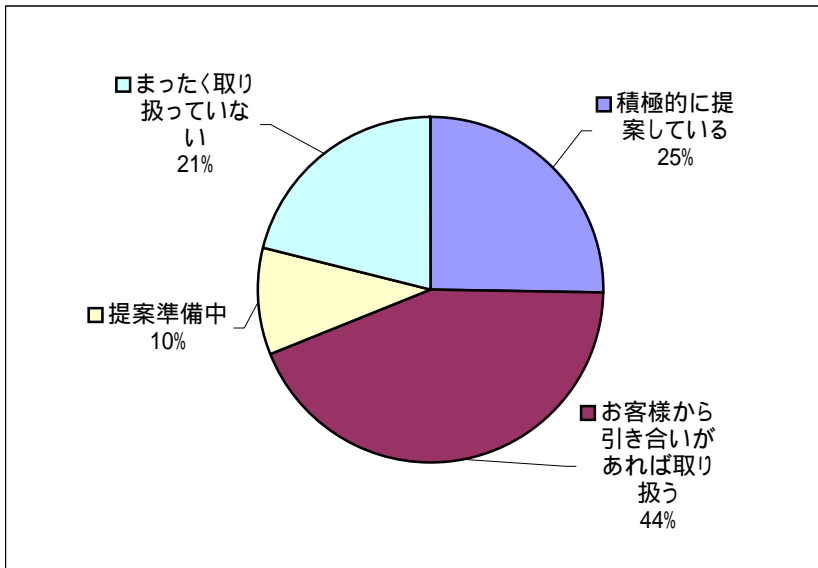


その他

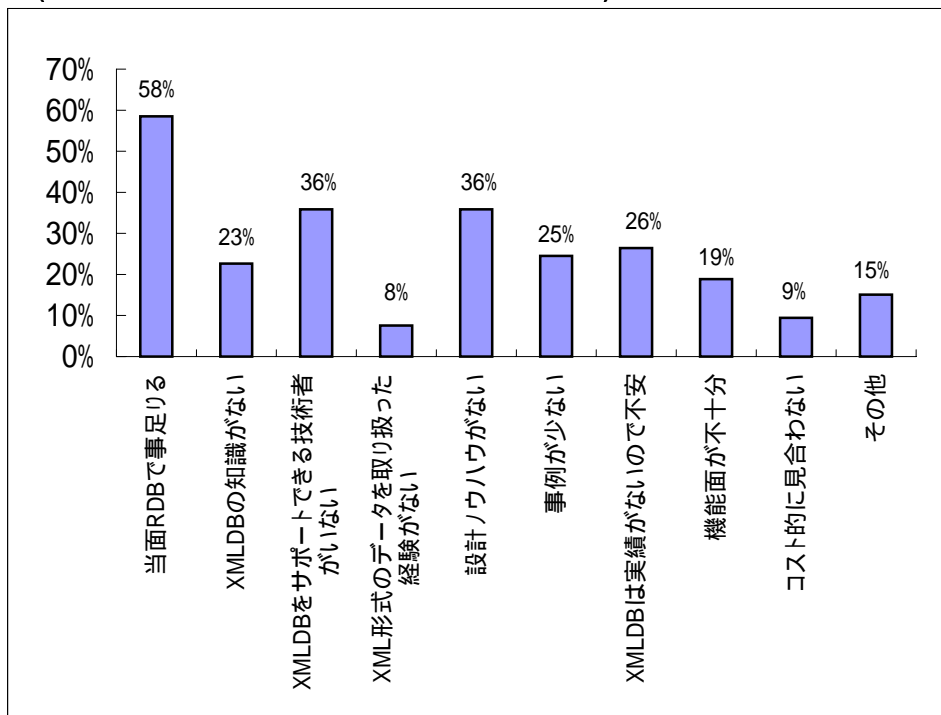
当社自身がSler/XMLDBベンダー
以前は取り扱っていました
自社要件として依頼をした場合を除き、ベンダー主体の提案は一度も経験がない。
不明

【システムインテグレータへの質問】

34 - 1) 顧客に対してXMLDBを積極的に提案しているか。



34 - 2) XMLDBを導入する場合に懸念/障壁があるとすれば、何？ (複数選択可)
(積極的に提案している以外を回答した53会員)



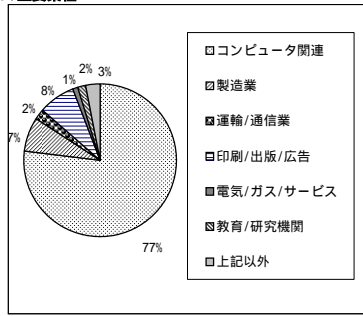
その他

性能問題がある
大容量時、複雑化時の効率性に不安。
性能面で懸念がある
RDBに比べ管理運用ノウハウが少ない
高額なため、敷居が高い
不明
セキュリティ、アクセス制御
採用の絶対的利点

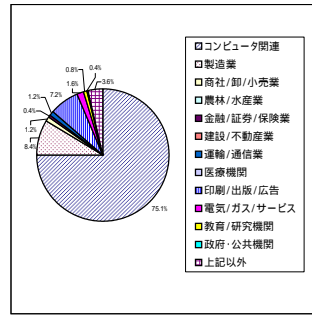
以上

<比較データ:2001年度~2007年度>
2001年度

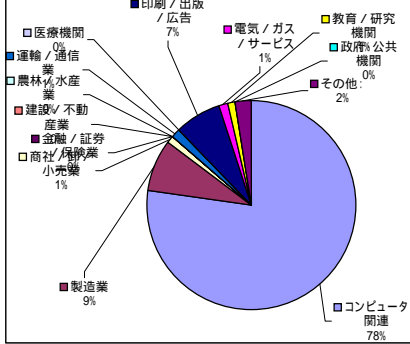
1. 主要業種



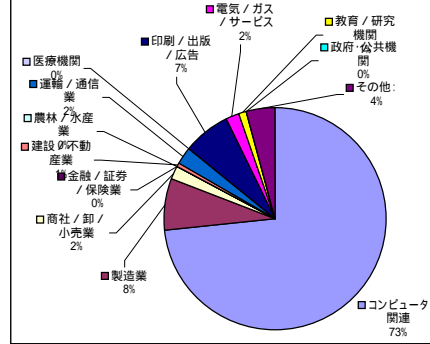
2002年度



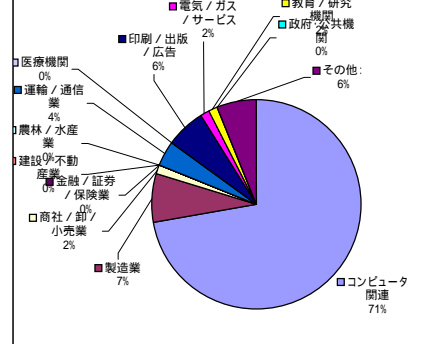
2003年度



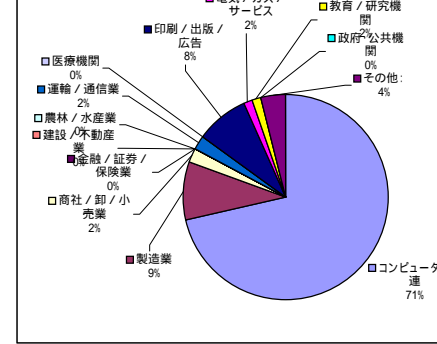
2004年度



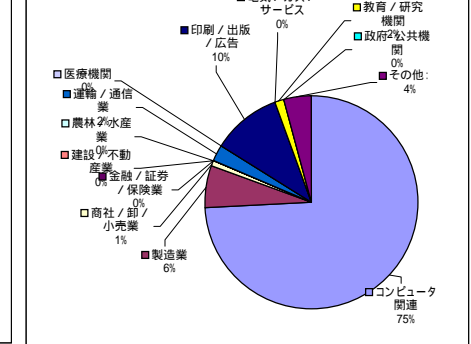
2005年度



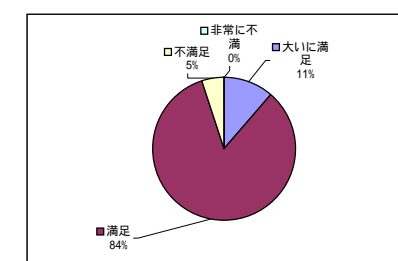
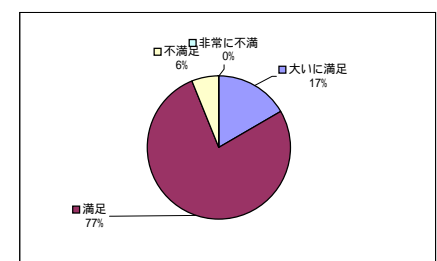
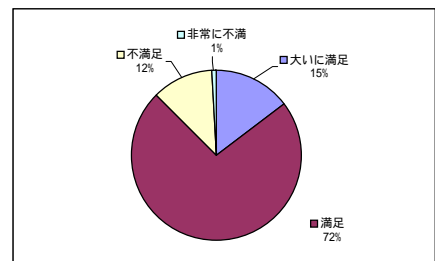
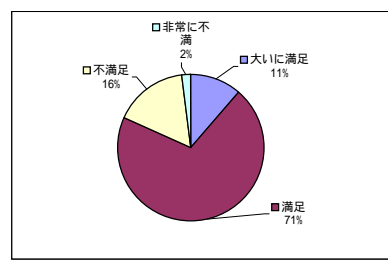
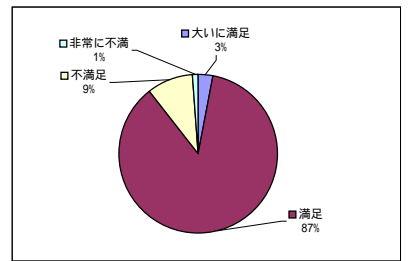
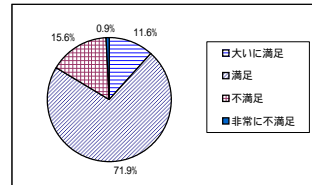
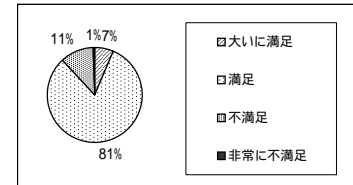
2006年度



2007年度



2. XMLコンソーシアムの活動に対する評価



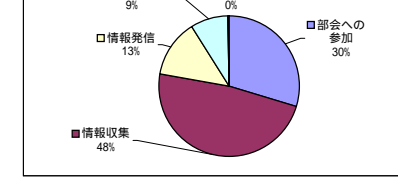
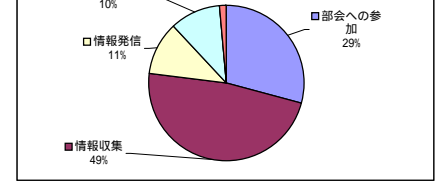
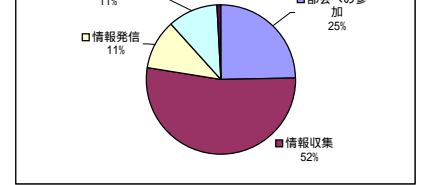
3. XMLコンソーシアムに参加する期待やメリット

設問なし

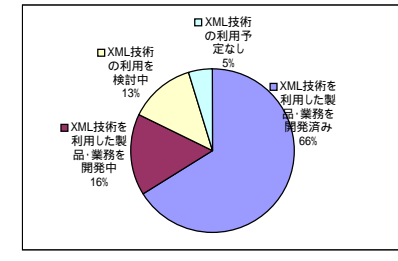
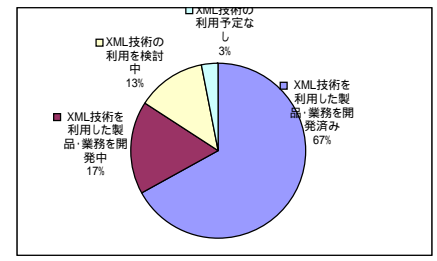
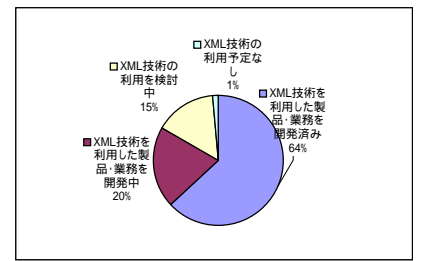
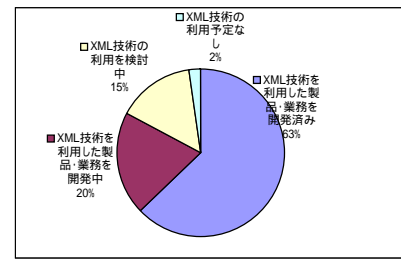
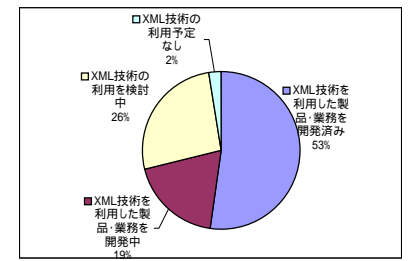
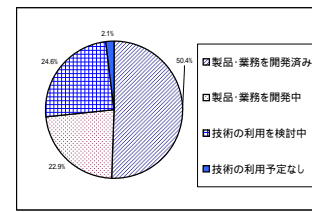
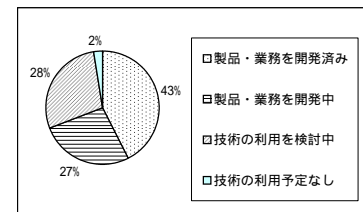
設問なし

設問なし

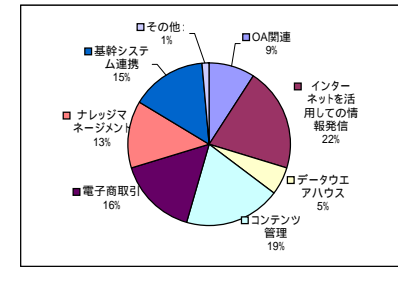
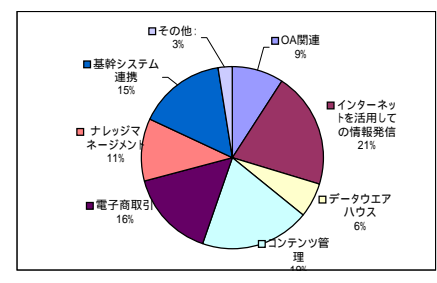
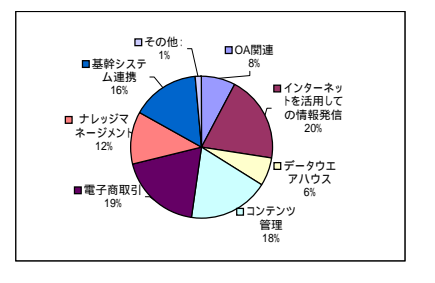
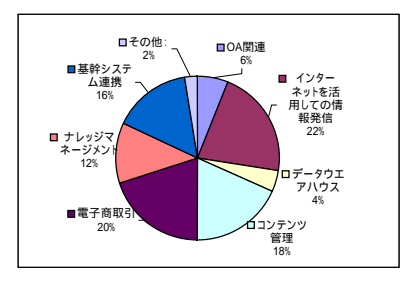
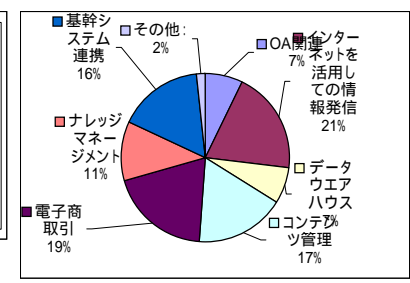
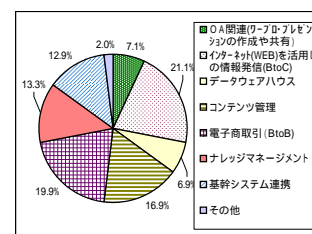
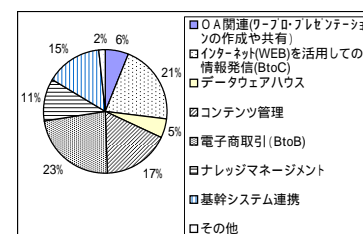
設問なし



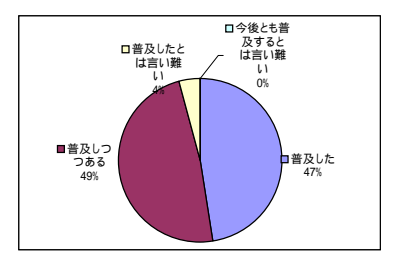
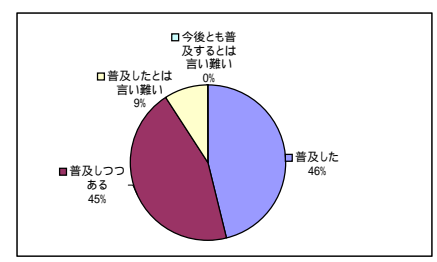
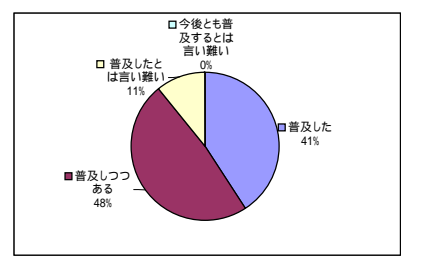
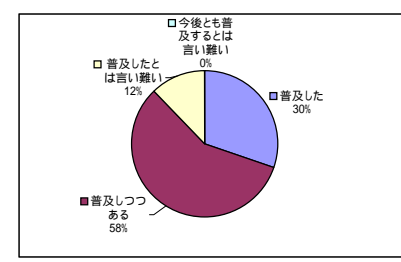
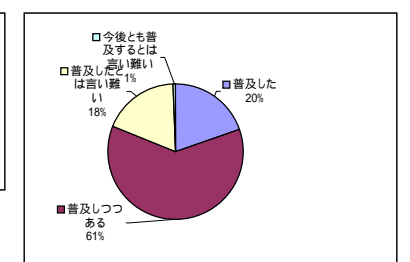
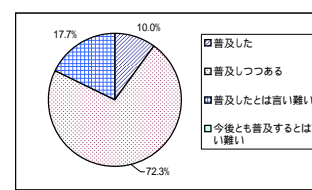
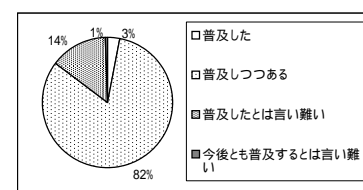
XML普及度アンケート
4. XMLに対する取り組み状況



5. XML技術の適用領域として適するもの (複数選択)

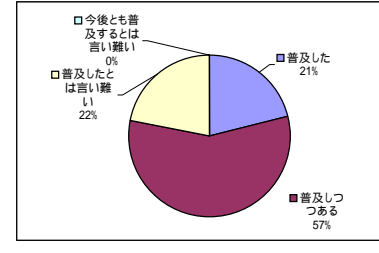
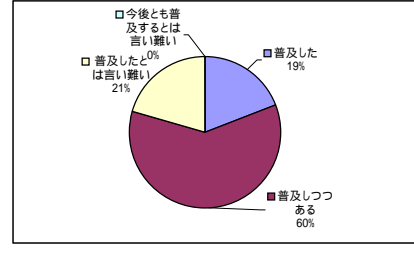
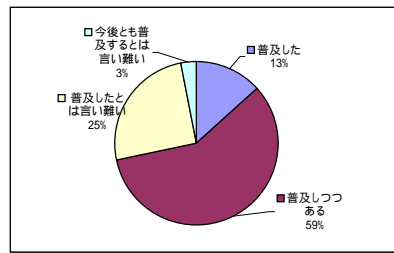
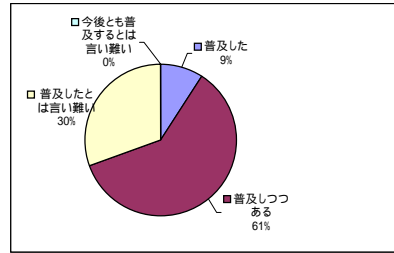
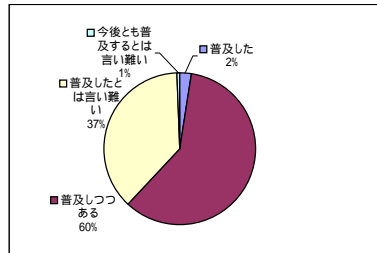
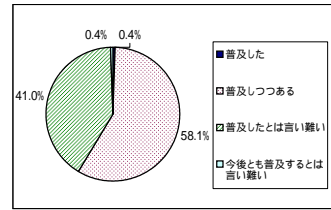


6. 日本におけるXML技術の普及度合い (1)IT業界におけるXML技術の普及度合い

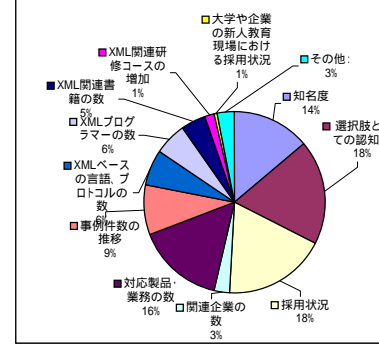
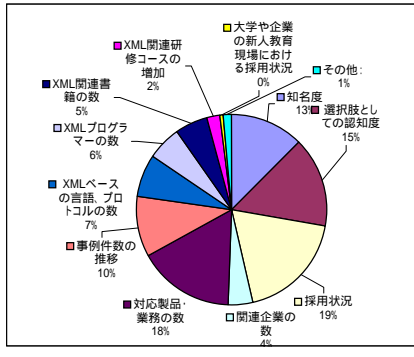
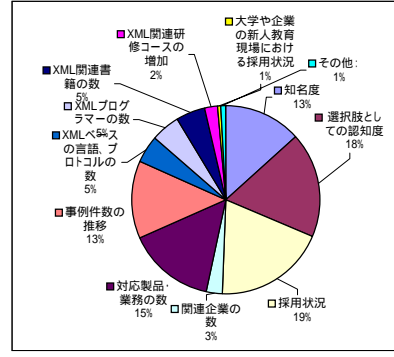
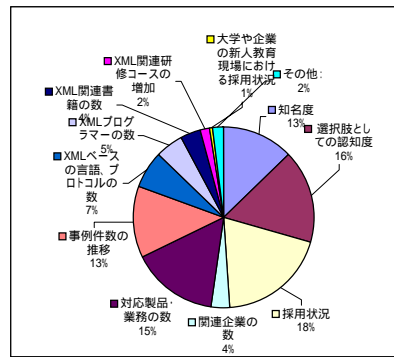
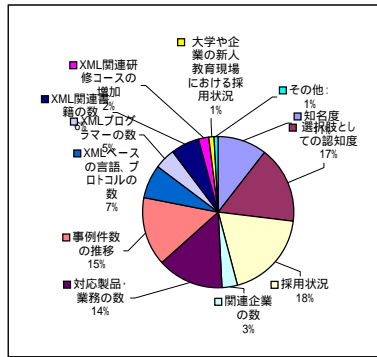
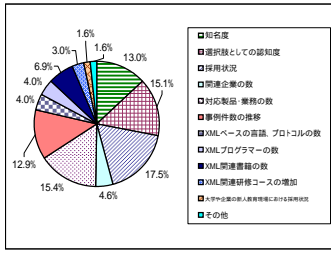
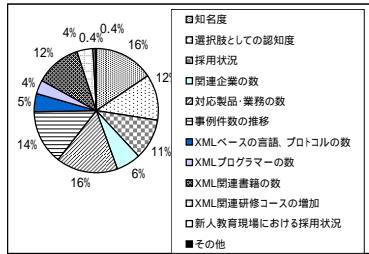


(2)ユーザー企業におけるXML技術の普及度合い

設問なし

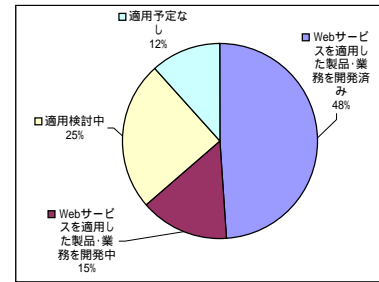
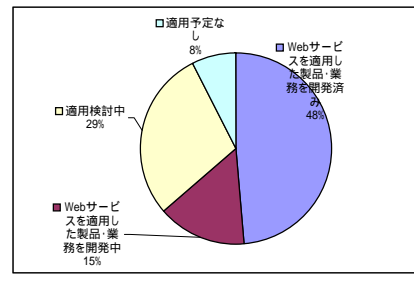
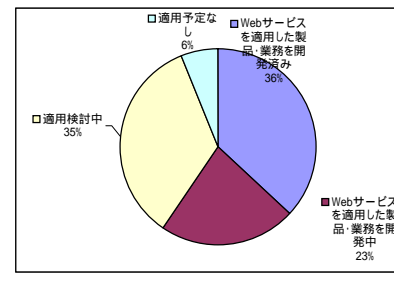
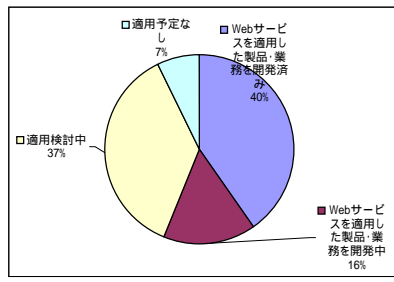
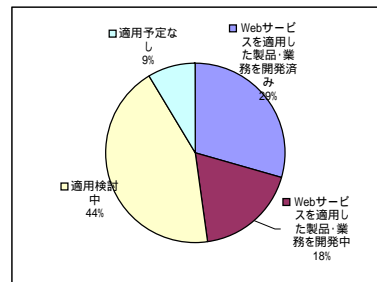
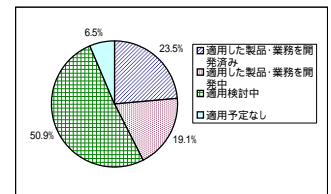
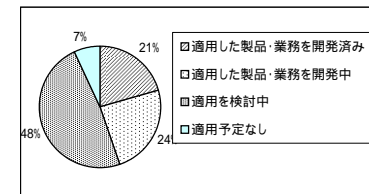


7.上記設問を回答するにあたり、普及度合いを判定した基準(複数選択)

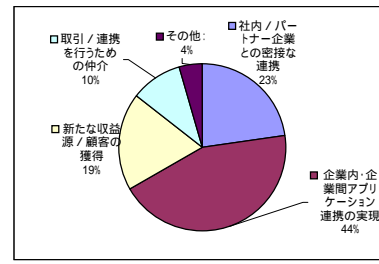
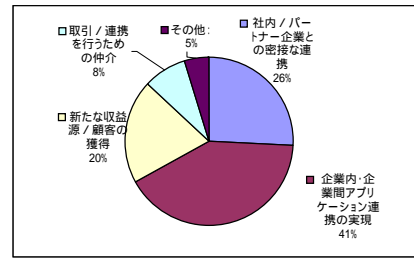
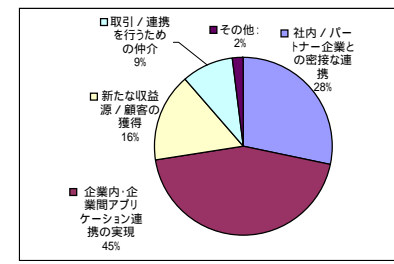
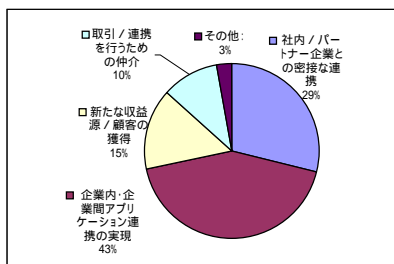
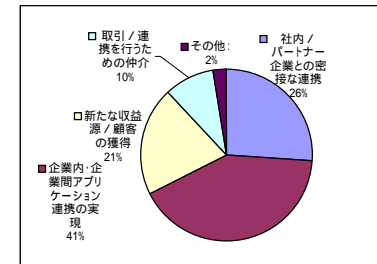
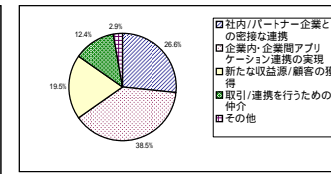
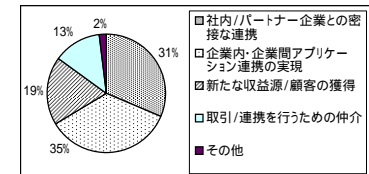


Webサービス普及度アンケート

8. Webサービスに対する取り組み状況



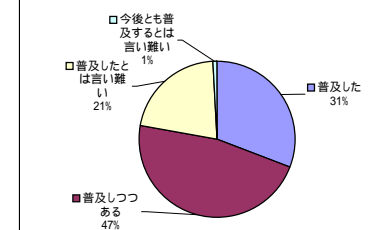
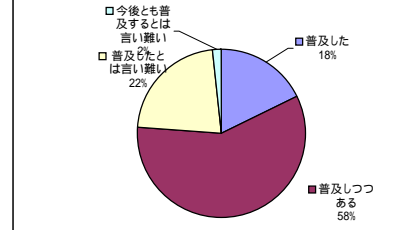
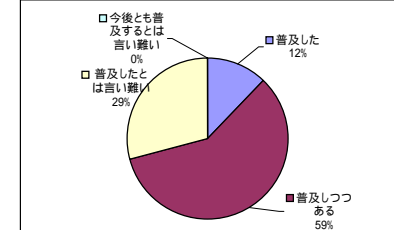
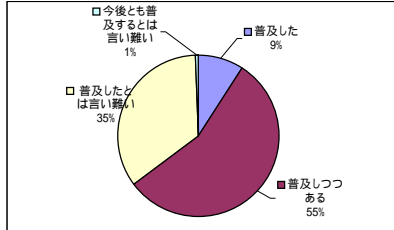
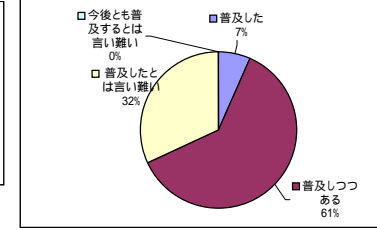
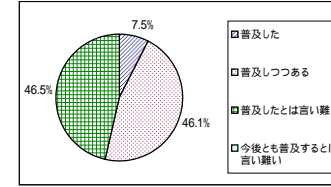
9. Webサービスを活用してみたい対象領域(複数選択)



10. 日本におけるWebサービス技術の普及度合い

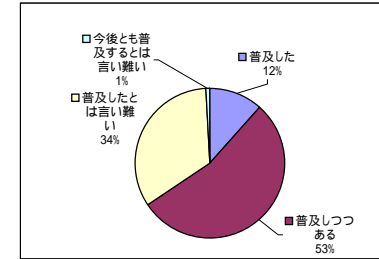
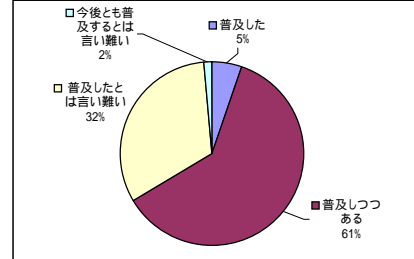
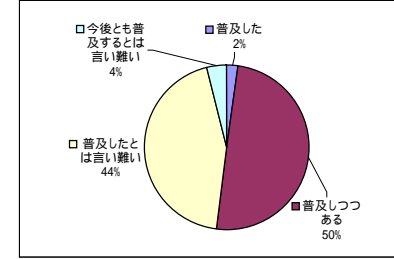
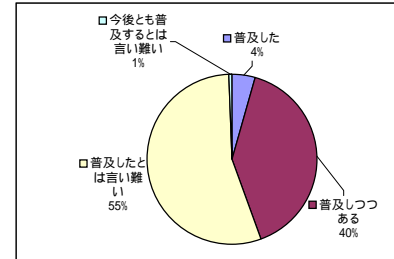
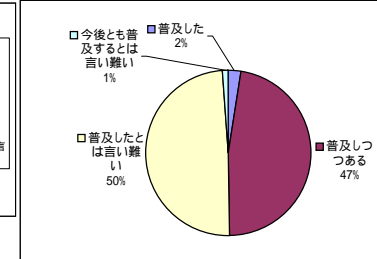
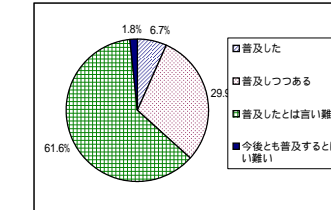
(1)IT業界におけるWebサービス技術の普及度合い

設問なし



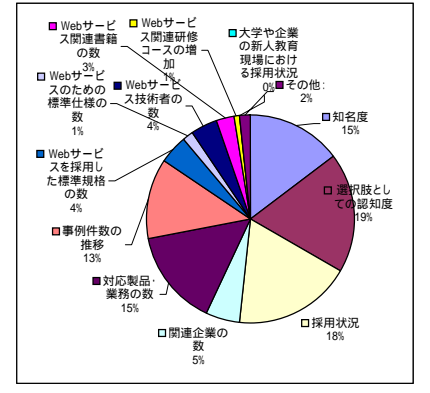
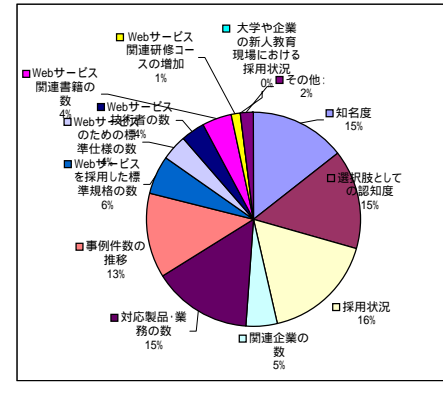
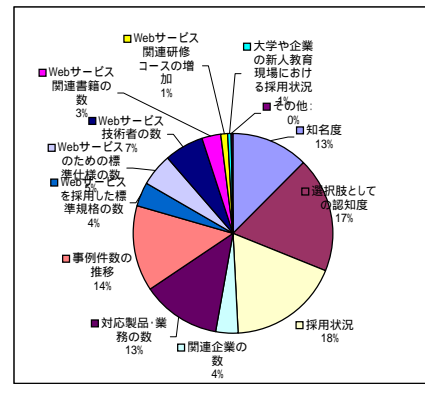
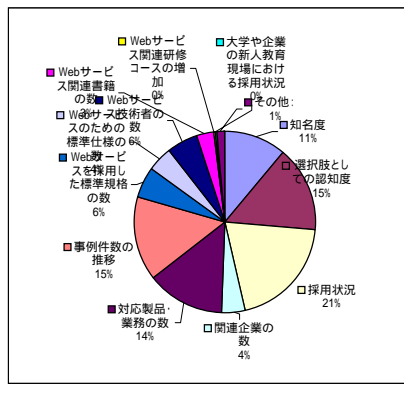
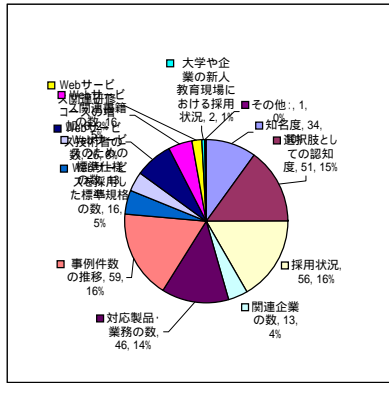
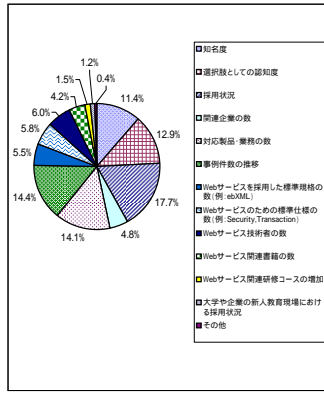
(2)ユーザー企業におけるWebサービス技術の普及度合い

設問なし



11. 上記設問に回答するにあたり、普及度合いを判定した基準(複数選択)

設問なし

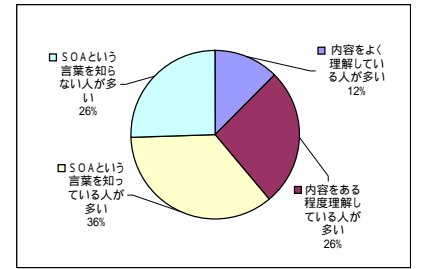
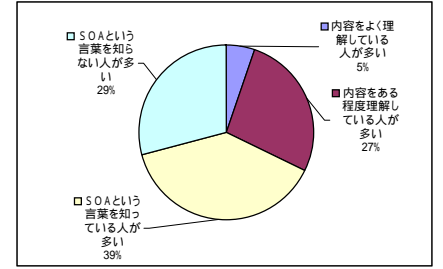
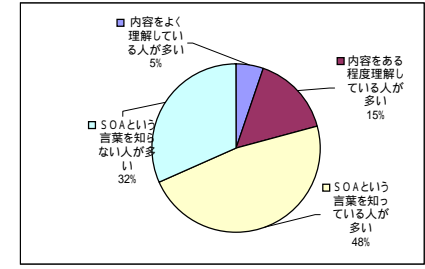
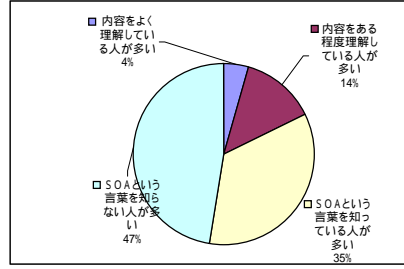


SOAに関するアンケート
12. SOAに関する社内の理解状況について

設問なし

設問なし

設問なし

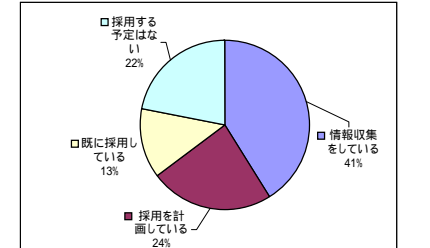
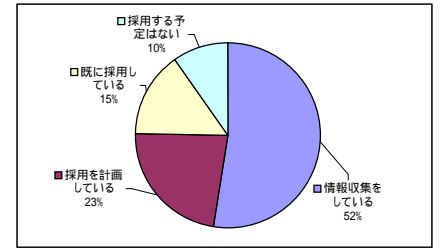
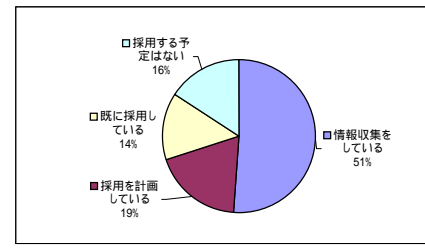
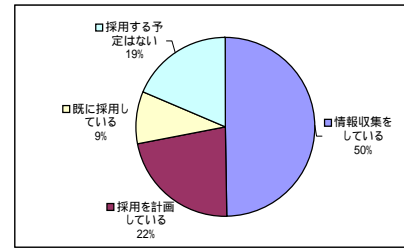


13. SOAに対する採用状況

設問なし

設問なし

設問なし

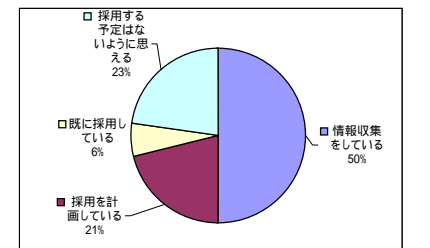
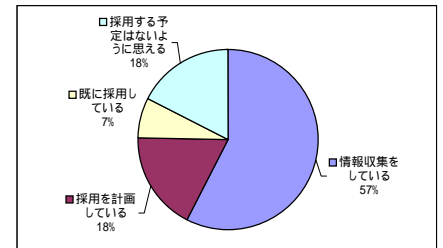
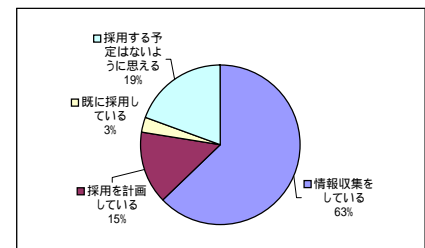
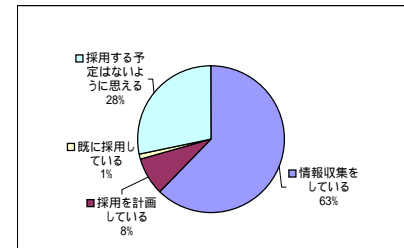


14. ユーザー企業における取り組み状況

設問なし

設問なし

設問なし

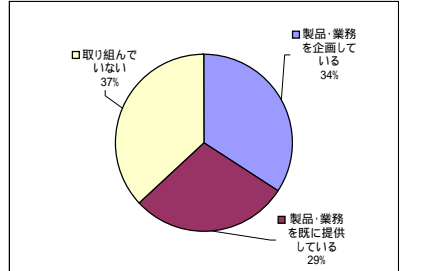
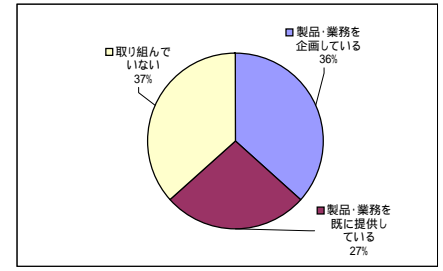
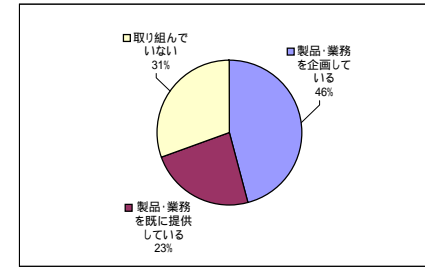
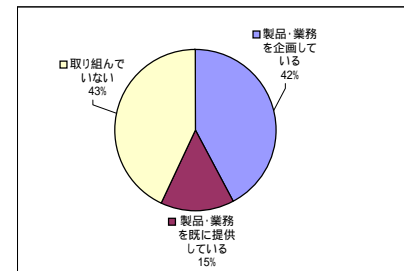


15. ITベンダー会員のSOAに対する取り組み状況

設問なし

設問なし

設問なし

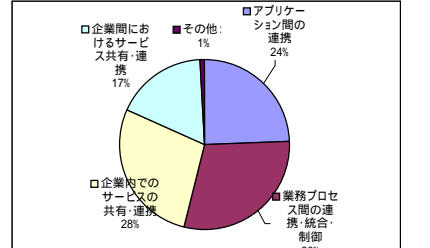
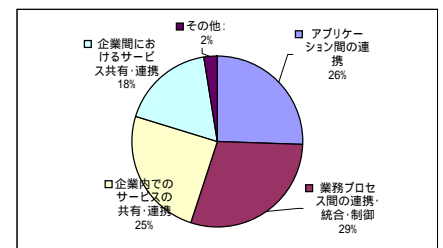
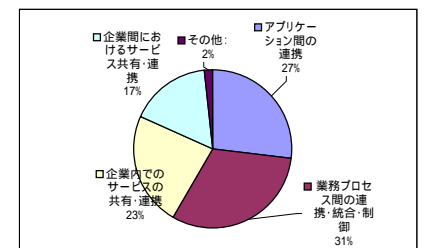
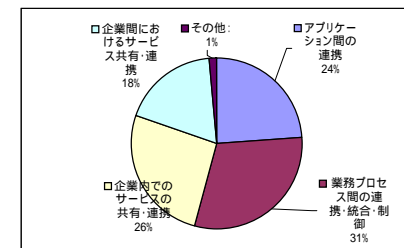


16. SOAを適用してみたい対象領域(複数選択)

設問なし

設問なし

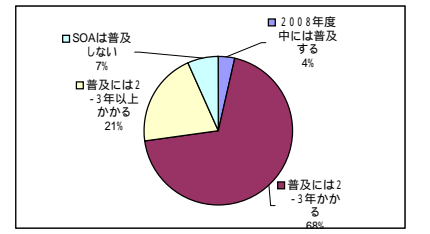
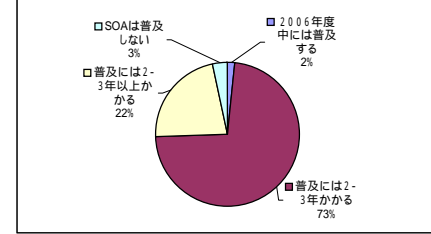
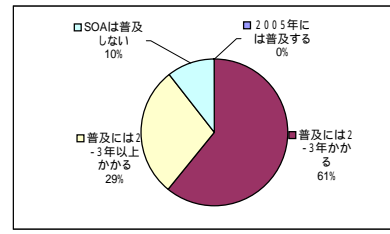
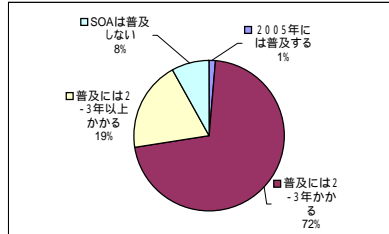
設問なし



17. SOAの普及に関して
設問なし

設問なし

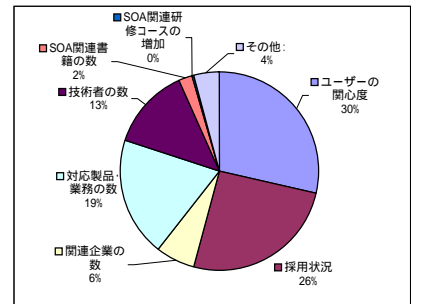
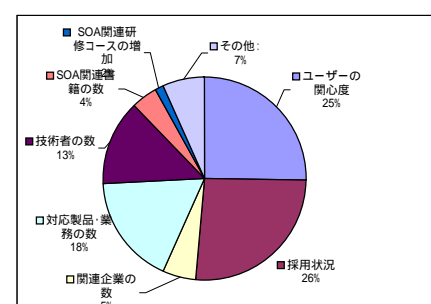
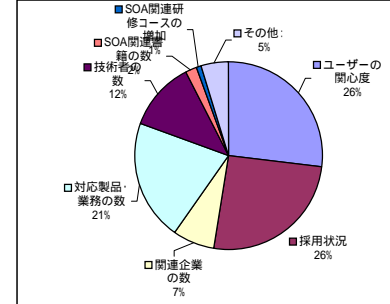
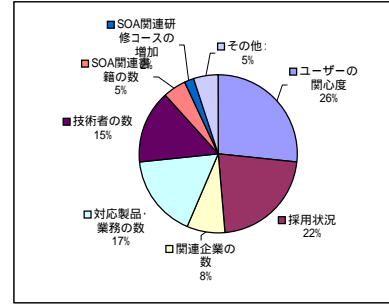
設問なし



18. 上記設問に回答するにあたり、どのようなことを念頭において普及予測をされたか(複数選択)
設問なし

設問なし

設問なし



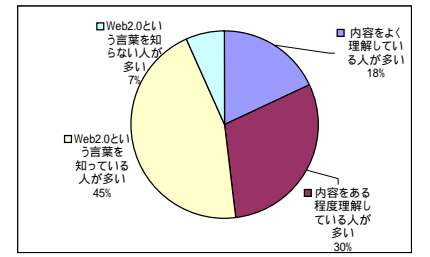
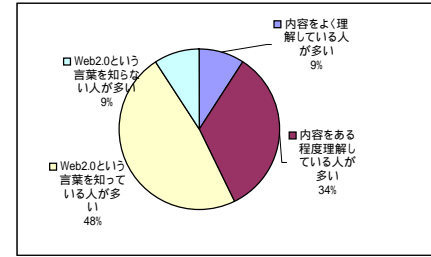
Web2.0に関するアンケート
19. Web2.0に関する社内の理解状況
設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし



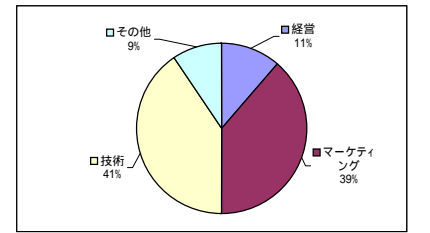
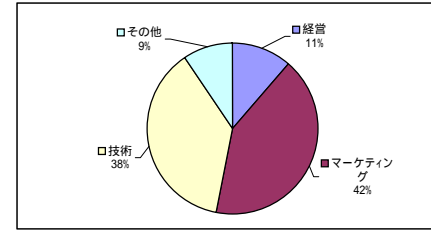
20. Web2.0は、どの分野の話題だと思われるか?(複数選択可)
設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし



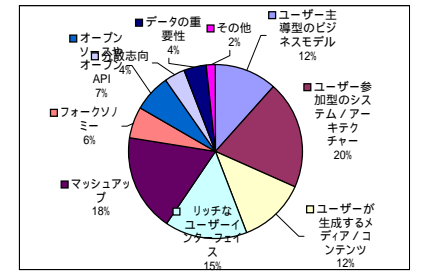
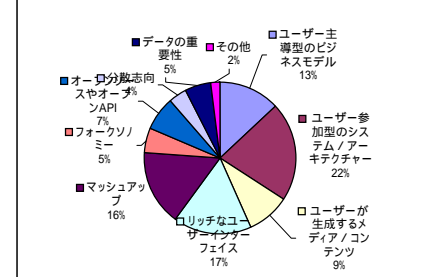
21. Web2.0に関して、何をイメージするか?(複数選択可)
設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし



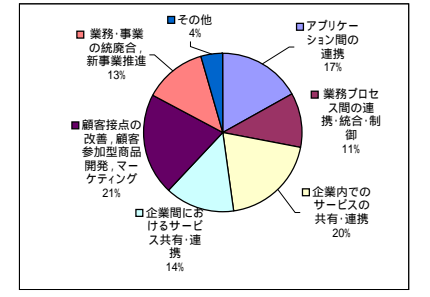
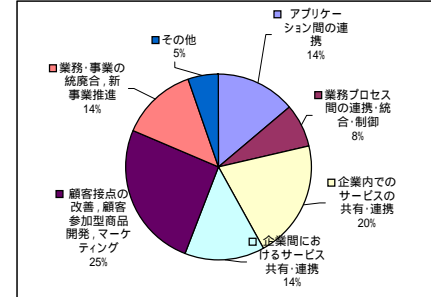
22. Web2.0を適用してみたい対象領域は?(複数選択可)
設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし



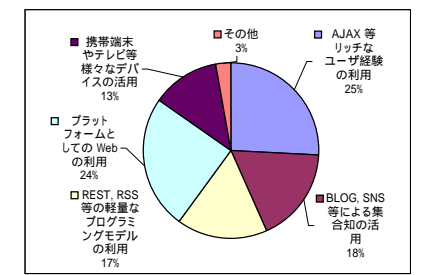
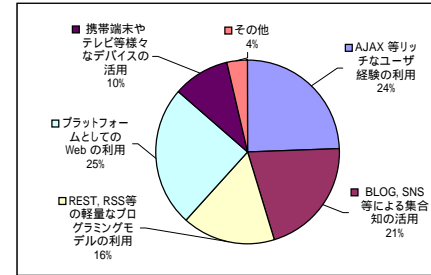
23. Web2.0のどの原則、側面がビジネスにとって重要または有用と考えられるか?(複数選択可)
設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし



24. Web2.0的なサービスを導入する場合にリスクと思われるものは？ (複数選択可)

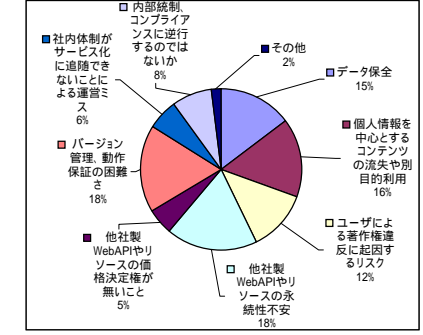
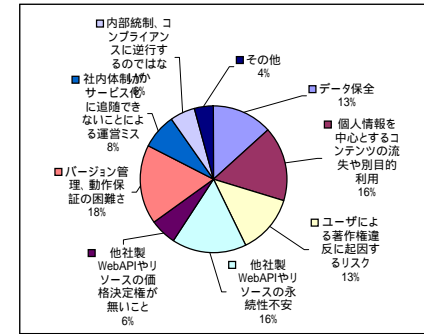
設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし



XMLデータベース(以下XMLDB)に関するアンケート

25. XMLDBに関する社内の認知度

設問なし

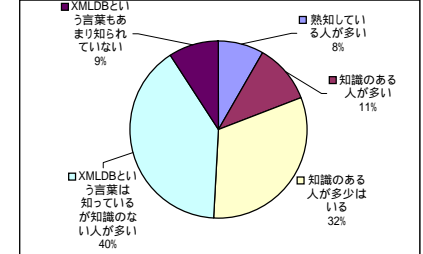
設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし



26. XMLDBに対する取組み/採用状況

設問なし

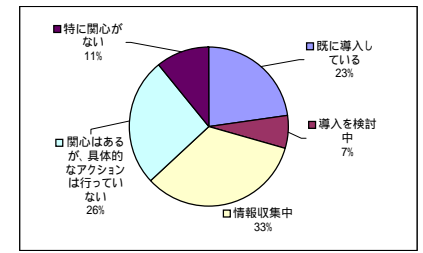
設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし



27. XMLDBの導入を検討している(またはすでに導入している)理由 (複数選択可)

設問なし

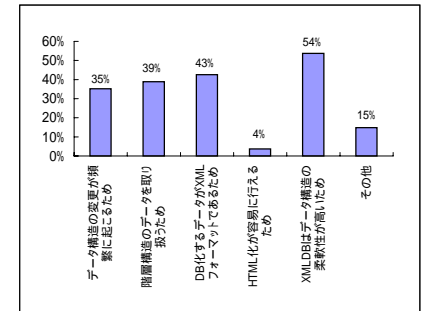
設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし



28. XMLDBを適用している/適用してみたい対象業務 (複数選択可)

設問なし

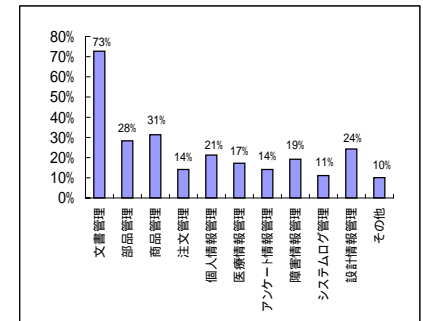
設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし



29. XMLDBのどのような点が有用である/有用になるであろうと考えているか? (複数選択可)

設問なし

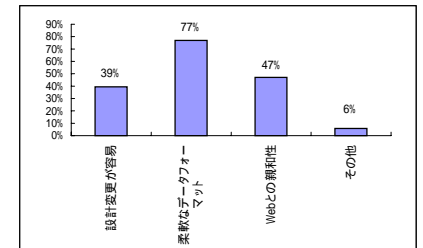
設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし



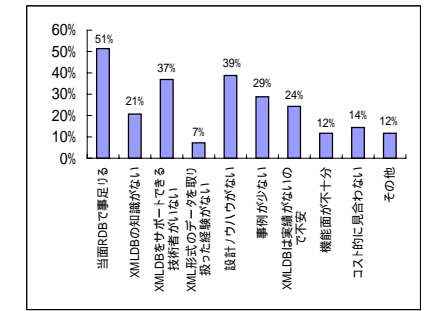
30. XMLDBを導入する場合に懸念/障壁があるとすれば、何? (複数選択可)
 設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし



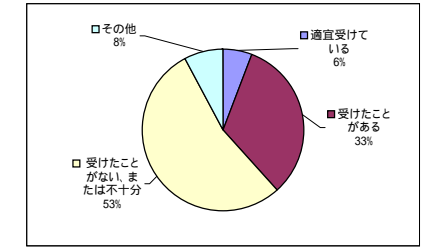
【ユーザー企業への質問】
 31. システムインテグレータやベンダーからXMLDB関連情報やXMLDBによる提案を受けているか?
 設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし



【システムインテグレータへの質問】
 32. 顧客に対してXMLDBを積極的に提案しているか、
 設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

設問なし

